

第 1 回館山市議会定例会会議録

(第 2 号)

1 平成4年3月9日（月曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 秋山 光章
3 番 島田 保
5 番 宮沢 治海
7 番 鈴木 順子
9 番 脇田 安保
12 番 岩村 勝弘
14 番 小宮 利夫
17 番 鈴木 忠夫
19 番 川名 正二
21 番 神田 守隆
23 番 石井 昌治
25 番 流山源次郎
27 番 横溝 功

2 番 増田 基彦
4 番 斉藤 実
6 番 植木 馨
8 番 永井 龍平
11 番 山崎 雅己
13 番 榎本 春光
15 番 山中金治郎
18 番 日下 君敏
20 番 生稻 陞
22 番 福原 勤
24 番 石井 輝久
26 番 辻田 実
28 番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

10 番 庄司二三男

16 番 鈴木 勝美

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 渡辺 弘
総務部長 二通 英雄
経済部長 脇田 元始
水道課長 鈴木 信一

助役 小幡 清之
市長公室長 佐藤 輝雄
民生部長 佐藤 澄雄
建設部長 伊東 衛
教育委員会 会長 福原 修
教 育 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 土橋 康彦
書記 鈴木 修一

1 議事日程（第2号）

平成4年3月9日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時03分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月4日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

15番議員山中金治郎君。御登壇願います。

（15番議員山中金治郎君登壇）

◎15番（山中金治郎君） 発言のお許しをいただきましてありがとうございます。私は、さきに通告いたしてございます新年度の予算編成に関連しての2点と、市の経済活動の中心的存在である零細自営業者の振興策についてお伺いをいたします。

私は何回となく予算編成や財政運営についてお伺いをいたしましたが、施政方針は総花的施策の列举に終わり、答弁はその場限りのようなもの、私はこの任期中にまずこれだけはぜひやりたいというような情熱的なものは感じ

られませんでした。それは各種の財政的な数値になってあらわれております。市の予算や財政運営は直接6万市民に影響し、市民の幸せの度合いに関係してまいります。したがって、市の財政支出は効率的な運用がなされなければなりません。私は今ここに昨年同僚議員の方々が行政視察をされました山形県南陽市ほか8市と安房郡市2市9町村の平成2年度の決算状況によって財政的な数値を分析したものを作成し、所持をしておりますが、それによりまして私の通告質問の前提となるものを申し上げたいと存じます。

決算状況によりますと、まず歳入歳出額の住民1人当たりの額を調べました。住民1人当たりの額にして、より市町村の実力と申しますか、実勢に近づけたいと考え、他の財政数値も1人当たりの額で申し上げます。当市は歳出額で23万4,284円、歳入額では24万4,727円で、ともに安房郡市では最下位で、他市の10市の中でも9位であります。人口3万1,000の隣の鴨川市でさえ歳出で32万1,095円、歳入で33万5,872円であり、歳出、歳入ともに当市よりは約4割近くも大きい決算であります。郡内では、歳入で見ますと、最高は丸山町の48万9,091円、町村最下位の白浜町でも35万1,520円と、当市と比較しますと4割4分近く大きくなっております。もちろんこれは単年度だけですし、義務的経費の推移から、人口の少ない市町村は1人当たりの額は割合高くなる傾向のようでありますから、これだけで判断することはできませんが、大きな目安として利用できます。

市町村の自主財源である市税を見ますと、これは館山市が一番高い。1人当たり11万720円で、郡内ではトップで、他の10市中でも5位にあります。

次に、国、県支出金を見ますと、当市は2万5,952円、郡内でも、また10市でも最下位です。最高は三芳村の8万4,735円、鋸南町の7万1,240円、鴨川市は5万6,174円で4位でございます。普通なら福祉三法に対する国、県支出金は町村にはないと聞いておりますので、当市の分からこの額を落としてみてください。当市の国、県の支出金は微々たるものになります。

次に、地方交付税と譲与税、交付金を合わせて調査いたしますと、当市は1人当たり5万8,016円で、これも郡内で最下位です。最高は三芳村の26万552円で、以下20万円台の市町村が3市町村あります。鴨川市は11万1,076

円となっております。

歳出に入りますと、投資的経費——これは普通建設事業費と災害復旧事業費を合わせた支出額ですが、これは当市は5万 3,244円であります、郡内のトップは鋸南町の17万 9,535円であり、白浜町の8万 1,327円を除くと全町村10万円台であります。鴨川市は10万 2,222円であります。

このように、歳出、歳入額の数値から結果として繰越額を見ますと、郡市の中で当市が一番トップで、5億 5,477万円で、次は鴨川市で、3億 9,400余万円、千倉町の3億 4,400余万円、最低が和田町の 6,160万円であります。これは偶然かも知れませんが、郡内では割合投資的経費の少ない町村は多額の繰越額が計上されております。当市の場合も、繰り越された額の5億円をその年度の予算に計上して国、県の補助のある適債事業に振り向けられたとすると、8億か9億の事業が執行され、それだけ市民の幸福の度合いが増進されたと存じます。1人当たり約1万 6,500円が積み重ねられたわけであります。また、よく新年度の資金操作のため、多少の繰越金が必要だと申されますが、現在では地方税法を初めいろいろな法令により、資金需要に合わせ収入あるいは交付するように法令が整備されているようですので、そう多い額を年度当初に必要とすることはないと思います。

以上の諸点から私に考えられますことは、予算編成が財源優先の手法であり、市の構想や事業の年度間計画が作文されているのではないかと思わざるを得ません。まず市の構想を、それに基づく事業の年度計画等を優先させ、財源不足がもし見込まれた場合には、種々な方法や資金調達の方法を考えてでも事業実施を完遂すべきではないでしょうか。このような観点から市長さんのお考えをお伺いをいたします。

まず第1点、予算編成を、市長直属のプロジェクトチームをつくり、企画優先と申しますか、慎重に練り上げた年度間の事業計画を中心に、各課に平年の事務的経費要求を、財源に関係する各課より賦課調定可能な数値資料を提出させ、もし不足財源が予想されたときは他の方法、手法による資金調達を探索して予算の編成が行われるとすれば、現在よりも事業量は増加していくものと考えます。しかし、こういうものをつくっても、それは本当の出発

点であり、終点ではありませんから、常に担当者はやる気と申しますか、積極的な行動と、予算の特に事業の進行管理に常に配慮していかなばならないと存じますが、この点市長さんはどうお考えになりますか、お伺いをいたします。

次に、財源の効率的活用を図るために財源の公開制を考えられないかということでございます。これは財源に関する資料、情報をいつでも公開するということでございます。もちろん現在でも秘密にしているというわけではございませんが、財政に関する情報で途中経過のわかるものは監査委員より監査報告のコピーが配付されるのみと考えられますし、また報告書の数値は調定収入の数値が主で、補助、交付金等の交付、あるいは指令金額、予定金額というものは大部分含まれておりませんので、私どもでは関係課で聞くか、議会として正式に資料要求をしなければ、その数値が妥当であるかどうかチェックすることもできない状態であります。今議会にも一般会計補正予算が上程されておりますが、大きな数字として特別交付税が1億1,000万追加されておりますが、それが何で年度残り少なくなった今追加されなきゃならないのか、それがいつ決定され、現予算額と比較し幾らの差額が出ているのかわかりません。市長の予算提案権を否定するものではありませんが、議会として、また市民としてチェックするためにもそういった財政情報を知らなければならぬし、各税の各人別税額と法令等により守秘義務があるものを除いて公開していただきたいと思います。そうしますと、年度途中で調定までして収入をされていながら、予算未計上のまま繰越金として翌年度に回されるような非効率的な財政運営は改良されていくものと思われませんが、この点市長さんのお考えをお伺いいたします。

次の大きな第2点として、市の経済活動の中心的存在である零細自営業者の振興策についてお伺いをいたします。バブル経済がはじけていろいろと言われておりますが、そのバブル経済の中でさえ多くはあずかれず、常に経営の先行き不安感があり、家族とともに長時間労働してやっと得られる所得は大企業に働く人たちの1人分より低い額であるにもかかわらず、当市の経済活動の中心的存在として、地域社会に愛着を持ち、市経済の活力源として多

くの困難を乗り越え、今日に至っておると思われます。

平成2年実施の国調の結果がまだ公表されておらないようですので、60年と40年の国勢調査による就業人口を比較してみますと、40年国調では1次産業は9,232人で35.4%、2次産業は4,347人で16.3%、3次産業は1万3,147人で49.2%で、60年の国勢調査では1次産業が4,415人で16.5%、4,818人の減、2次産業が5,482人で23%にふえ、3次産業は1万7,050人として、3,903人の増となっております。社会情勢の移り変わりもあるかと存じますが、当市における商工業の比重が大きくなりつつあることを示しております。

しかし、最近では大通りでさえ閉店したままの店舗跡が散見されるようになりました。閉店の理由は種々あると存じます。ほかに新店舗を移したために閉店したものもあるかもしれません。後継者がなくて、やむを得なくて閉店したものもあるかもしれませんが、そこで新装開店されないということは、そこでの予想営業利益から引き合わないということで、言い換えれば投資をし、努力しても売り上げが上がらないということではないでしょうか。それとともに、現在営業活動を続けておるが、零細自営業者のほとんどの者が大型店の進出による圧迫感と売り上げの減少傾向、ワンショッピングの利点を持つスーパーの数多くの開店、交通の便利化による都会での購買等々の外的条件に加え、経営の先行き不安感、後継者難、経営情報の少なさ等々、多くの零細自営業者は利潤が減少すれば生活費を切り詰めて、あるいは家族をほかへ就職させる等、去るも地獄、残るも地獄の実情であります。

こんな実情に対して、市は毎年の施政方針では商工業振興を重点的に取り上げる旨の作文をしておりますが、本当に市の商業振興、それはとりもなおさず零細自営業者を救済する施策を講じているのでしょうか。

先ほど申し上げた安房郡の各市町村の平成2年の決算状況によりますと、各市町村の商工費と労働費は次のようになります。住民1人当たりの支出額ですが、当市は4,222円であり、郡内最高の天津小湊町は1万9,855円であり、館山市より少ないのは三芳村の341円だけであります。しかし、館山の中には預託融資の原資、これは年度内に歳入となりますので、これを差し引いた支出額はせいぜい1,200か1,300円ぐらいでしょう。

一方、先ほど申し上げました60年国調の就業人口に対する支出額を見ますと、2次、3次産業の就業人口1人当たり1万285円に対し、1次産業は11万6,347円とこれは11倍の支出額になっております。しかも、商工費といっても、当市の場合は観光費も含まれておりますし、零細商業者に対する直接的支出というか、施策は預託融資以外に全くないと言える状態であります。また、この預託融資も実際に利用できた人はわずかではないでしょうか。

市内の中小商工業の中にも、もちろん大企業関連のものから、また妻と2人の零細自営業者まで段階も多いと思いますが、企業者数からいっても、また経済活動の状況からいっても市経済活動の中心的存在であり、館山に生まれて館山に育ち、50年も60年も地域社会に貢献し、市民として立派にその責務を果たしている方々であろうと考えられるのではないのでしょうか。

私は先ほどから昨年同僚議員が行政視察をされた他市と安房郡の2市9町村の決算の状況を長々と説明申し上げましたのでおわかりかと思いますが、ほかと比較して余りにも差があり過ぎるので、これらの点真剣に御検討をいただきたいと思います。市長さんも既に行政内容を把握されたと存じますので、今まで申し上げた観点から次の点をぜひ早急に取り上げ、実施されるようお願いをいたしますが、可能かどうかお答えをいただきたいと思います。

まず1点として、市は既に何回となく市の振興計画作成のため商工業調査を実施していると存じますし、また構想などで描かれている商工業振興施策について、具体的な年度計画を樹立し、厳しい振興管理をしていただきたいということ。

次に、市経済の波及効果を考えて、市の財政支出について一定の限度を設定して、工事、物品購入、サービス購入等を問わず、市内業者から購入するような措置をしていただきたい。

もう一点は、大型支出等、特に工事等については、設計見積書に材料等は市内の業者から購入していただくよう指定して、特約の上入札をしていただきたい。

次に、市内業者から購入する場合でも、特定の者に偏らないような措置をしていただきたい。

最後に、経営等に関する情報交換のできるような場を考究して実施をしていただきたい。

以上で私の質問を終わりますが、御答弁によりまた再質問をさせていただきます。御清聴ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの山中議員の御質問にお答えいたします。

新年度の予算編成に関連します大きな第1の小さな第1点目、予算編成に市長直属のプロジェクトチームをとの御質問でございますが、現在市長公室に企画担当を置きまして、館山市の基本構想、基本計画の策定と、それに基づきます各部、各課から提出されます事業計画の調整及び進行管理を行っているところでございます。また、予算編成に当たりましては、事業調整を行った3カ年の根幹事業実施計画をもとに、健全財政を堅持しつつ、年次的な事業調整を行い、創意工夫のある計画行政の実現に努めているところでございます。

次に、小さな第2点目、財源の公開制の御質問についてでございますが、館山市の予算編成につきましては、根幹事業実施計画に基づく当該年度の歳入歳出を的確に把握し、1年間を見通しまして通年型予算を編成しております。特に、国、県の補助金、市債等を財源とする事業につきましては、当該年度の前半に関係機関と協議する必要がある、年度後半に至り事業を追加することは困難となりますので、できるだけ当初予算に計上しているところでございます。しかし、年度の間には制度の改正、国、県補助金、市債等特定財源の採択の状況による事業の変更、災害の発生、緊急に実施を必要とする事業や経済状況の変化による一般財源の増減は避けられませんので、これらにつきましては補正予算で対応しているところでございます。したがって、予算編成後のこれらの諸状況の変化等を的確に把握するとともに、事業実施期間を考慮し、できるだけ12月議会までに補正予算として提出するよう心がけているところでございます。

しかし、地方譲与税、利子割交付金、自動車取得税交付金等の一般財源に

係る最終額の決定は年度末となります。また、御指摘の特別交付税につきましても、全国の地方公共団体のその年度の特種財政需要に基づきまして年度末に決定されるものでございます。このため、これらの情報を早い時期に的確にお知らせすることは難しい状況にございます。

次に、大きな第2の市の商工業振興策についての御質問でございますが、市の商工業振興の年次計画につきましては、商業者の意見や各種調査等を踏まえまして、館山市基本計画並びに根幹事業実施計画に基づき実施しているところでございます。

商業振興につきましては、商店街活性化のため、モデル商店街指定事業あるいは商店街共同施設整備事業等に対しての助成及び大型店進出に対応しての資金利子補給や中小企業融資利子補給など、さまざまな対策を推進しております。市といたしましては、今後これらの施策をさらに推進してまいりますとともに、商業者の経営体質の研究や情報交換の場の充実などについても商工会議所等関係機関と十分に協議してまいりたいと考えております。

次に、市経済の波及効果を考え、市の財政支出について一定の限度を設定し、工事、物品購入、サービス購入等を問わず、市内業者から購入するよう措置されたいとの御質問でございますが、工事、物品等の発注、購入につきましては、御指摘のとおり地元経済の活性化、市内業者の育成を図るため、受注機会の確保に努めているところでございます。

次に、工事等につきましては、設計見積書の材料等は市内業者から購入するよう指定し、特約の上入札されたいとの御質問でございますが、それぞれ業者としての経営方針や取引関係もあると思いますので、特約条項を設けることは難しいものと考えております。

次に、市内業者から購入する場合でも特定の者に偏らないよう措置されたいとの御質問でございますが、この点につきましても十分配慮しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） はば了解をいたしました。また再質問させて

いただきます。

まず、細かいところに入る前に、これは市長さんに1点だけお伺いしますが、これ私先ほどくどくどといろんな数字を挙げて申しましたが、そのほかにも館山と人口が同じような富津市——これはもちろん人口密度は館山の半分ですから、それだけ広いということになるから、これは予算規模が大きいのは当たり前かと思いますが、それにしても大体1人当たりにしまして、富津市の決算の規模が1人当たり49万5,000円、館山は24万5,000円、館山の倍組んでいるわけです。しかも、投資的経費は1人当たり24万2,000円ということは、予算の約半分は投資的経費ということです。これはいろんなことがあったかと思いますが、そういうふうな状態なんです。ですから、そういう——富津も市税の構成比は30%台です。ですから、30%という大体館山と同じような規模の——市の平均の市税の構成比は30から33ということのようですから、ですからそこまでは予算が私は組めるわけじゃないかと思うんです。そうなりますと、館山市の今年度の予算も190ぐらいは——平均190から200、それが平均ということですから、まあまあでそこまでを組めるだけの素質があるわけなのだ。ですが、とてもそこまでは大変なことかと思いますが、私はその数字をお聞きするわけじゃないんです。

市長さん、ほかから見てそうやって非常に差がある、館山市は。ということは、私遠慮なく発言させてもらえれば、どうも館山市はやる気がないんじゃないかなということになっちゃうんですが、これについて、よそとどうも差があり過ぎるなと感じるんですが、その辺市長さんは基本的にどうお考えか、その点だけお聞かせいただきたい。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 時々富津の市長さんと木更津の市長さんと君津の市長さんと話し合うんですが、この3つの市長さんうらやましい限りでございます。国の交付金を必要としない自主財源でやっているまちでございまして、できるだけそれに近づきたいなという願望は持っているんですが、館山市の税の実態はそこまでいっておりませんので、山中議員さんの積極的な御意見はわかりますけれども、現状においては残念ながらそこまで届いておりませ

ん。御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） これはもちろん——富津の市長さんは建設省の出身のようでございますんで、しかも県の土木部長上がりということで、非常に私はそういった財政の金の引き出し方が上手じゃないかと思うんです。

それはそれといたしまして、次にお伺いしたいのが、答弁の中でお聞きいたしまして、これはどうもある財源の中で事業調整を行うというような手法のようにお聞きいたしましたが、これはどうしても——私そういうことをやっているから、館山市は予算規模を拡大もできないし、いろんな思い切ったことができないじゃないかと思うんで、それで私は財源が優先の予算編成じゃなくて、あくまでも企画優先というか、これはもちろん機構改革が伴うかもわかりませんが、そういういろんな計画をつくる人に一番発言力を多く与えて、それでそれに財政をつけるというようなことをこれはお願いしてあるわけなんです、これはやっぱりそのような機構改革といいますか、やっぱり企画優先のような、そういうふうな予算編成、事業計画ですか、そういうものができるような組織に変えるということは、これはできませんか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 山中議員さんの御指摘のように、現実の行財政運営の中ではどうしても計画サイドの見方よりも財政サイドの見方の予算が強くなる、出ざるを得ないというのが現状でございます。しかしながら、現体制におきましても十分企画の考え方を反映させるような組織になっておりますので、御質問の趣旨は十分わかりますので、今後とも現体制の中で積極的に対応していきたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） このことは前に私何回か、前の市長さんのときにも質問したことございますけれども、先ほどに戻りますが、市税の構成比率が大体30%台というのが平均だということ。それで、本当に市長が、市の職員が一丸となって命がけで取り組んでいるところは20%台でやっているん

です。これは物すごい — またそういうふうな市に行くと、非常に活気があるんです。ですから、そういうふうに — たとえ数は少ないかも知れませんが、やっているとところがあるのです。

私前に申し上げましたが、九州の熊本の人吉、私の先輩が市長を20年やっておりましたが、その人なんかは人口4万のまちで20年間に — 市長になってすぐ長期構想をつくった、20年間の。それで、20年間に2,000億ですよ。それで、地元負担が1割だということなんです。ですから、毎年10億の金を地元でつくれば、あと国が100億の仕事をやってくれるということで、それ20年間自然公園都市構想ということ。それで、この前市長が終わって、市長さん、あんた20年間に国に幾らやってもらったかいと言ったら、3,000億だと言うんです。当時市川の前市長たまげていましたけれども、うちのまちは人口40万だ、人吉は4万だ、40万のまちの10年分の国の補助金を4万のまちの人吉が1年で使っちゃう、考えられないということを言っていました。ですから、私先輩に、先生、どうなの。何でこんなに余計とれたんだ。山中さん、僕は命かけているんだ。雨の漏るようなうちへ入っていて、夢中になってまちを日本一にしたものですから、今すばらしい御殿ができちゃった。市民がつくってくれたというのだ。私それが政治じゃないかと思うんです。

そういうふうに本当にやる気があれば、そういった — 今公室長が言ったようなそういう建前論ではなくて、やる気があって国にぶつかっていけば国が出してくれる。これはしかし大変でしょう。そうなればまた監査が入ってきますから、会計検査が入ってくるから、非常に大変です。だから、行政当局も汗びっしょりかくことになる。しかし、そこまでやればそういうことはできるわけなんだ。やらないでじっと — 非常に楽だけれども、楽ばかりしているからこういうことになる。私はそのような気がしてならないからこういう嫌な質問を実はするわけですけども、しかしそういうことでひとつ — 市長さんも新しくなって、大分おなれになってきたでしょうから、ひとつ命がけでやってもらいたいということをこれはお願いを申し上げます。

それで、次に移りますが、財源の公開ということなんです、どうも公開は非常に難しいというようなことで、それに触れた答弁はございませんが、

これ毎年の繰越金が館山は非常に多い。ですから、その分を何とか翌年へ繰り越さないで、当年度で — 当年度の事業量を増やすということとはできないものかどうか、その点お伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 先ほど市長からも答弁いたしましたが、本市の予算編成につきましては、根幹事業の実施計画に基づきまして、1年間を見通した通年型予算を編成しております。そして、制度の改正、国あるいは県の補助金、あるいは市債等の採択状況等による事業の変更、あるいは災害の発生、緊急に実施を必要とする事業、あるいは経済状況の変化による歳入の増減等については補正予算で対応しているところでございます。

したがって、予算編成後の諸状況の変化等をできるだけ的確に把握しまして、早い時期に補正予算で対応しているところでございますが、12月補正を決定するのは11月の下旬ごろでございます。したがって、年度末でまだ4カ月残しておりますけれども、歳入歳出とも不確定なものがかなりございます。その後の経済状況等の変化も考慮しておかなければならないというようなこともございまして、3月補正が残っておりますので、この時点で見込まれるものを全部補正予算に計上してしまうことはできないという状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 非常に難しいようでございますが、こういうことはできないかと思うんですが、国、県からの交付金や補助金の申請に対して、内示とか指令、指示がかなり早く私あるんじゃないかと思うんですが、その申請に対するそういったものの — 県や国から来た文書をその課の入り口あたりにぶら下げておいてもらえば、我々はそれを見せてもらえるということであると、いや、こういうのがあと来そうだから、どうだい、こういう追加をということもあるいはできるんじゃないかと思うんですが、そのような — 公開といっても、ほんのちょっとしたそういうふうなことはできないかどうか、その辺どうですか。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 国庫補助金、県の補助金等についての内示の段階での公表はできないかということでございますけれども、内示の段階はあくまでも国、県等の予定が示されているものでございまして、最終的な決定においての額の変更を伴うものでございますので、内示の段階での公表は適当ではないと考えております。

なお、事業に係る補助金のほとんどは年度末に至りまして確定されるというようなこともございますので、御了承賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私がどうしてもそういうことを言うかといいますと、そういうようにある程度一部でも公開をするようなことになると、ほかの人にそれがわかるわけですね。我々にしてもそれを見せてもらえるから、いわゆる追加予算とか、そういうことについても、同じ市の方に行き行って、財源がないからだめですよということではなくて、いや、こういうのが来そうじゃないか、これでもってこういうことをやってくれということになりますんで、自然にその事業量が拡大していくんじゃないかなということで私はこれを取り上げたわけでございますので、ひとつ — 今の御答弁では非常にそれは難しいんだということですから、それ以上無理してこうしろということとはございませんが、ですからもう少し真剣に取り組んでいただいて、もちろん一生懸命やっていることわかりますけれども、それで何とか事業量を拡大してもらうような方向でこれはお願いをいたします。

そして、次の零細業者に対する問題ですが、これはいろんな方々のものを調査、いろんなことをしてみましてもこれはわかりますし、また1次産業ですね、1次産業については、非常に国の補助事業だとか補助金とか、そういうのが非常に多くついておりますけれども、これはどうして商工関係予算が小さいのかなと思うと、その補助事業が何かこれはないのかなというふうにして感じますけれども、その点、商工業者についてのそういった点はどうか、その辺ひとつお答えいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） それでは、近年の補助事業関係についてちょっと御報告と申しましょうか、申し上げてみたいと思います。

まず、モデル商店街指定事業として、昭和62年に銀座振興会、ここで街路灯、グリーンベルト、駐車場、事務所等の整備を行っております。この総額が4,545万1,000余円でございます。これに対して県と市の補助は3,000万、これは66%に当たります。次に、館山商店街協同組合に対しましての補助関係でございますが、これ61年度から始まっておりまして、計画策定事業から始まります。61年度は302万6,000余円の事業費に対しまして県、市で200万、66%に当たります。次に、62年度がコミュニティ活動事業として事業費が155万2,000余円、これに対しまして県、市の補助金が100万、64.6%になります。63年度、同じくコミュニティ活動事業として152万1,000余円、これに対しまして補助金が県、市で100万、65.7%になります。さらに、これが63年度に共同施設整備事業といたしましてコミュニティホールの建設がなされております。この総事業費が2,495万円、これに対しまして県、市で1,200万の補助、48%に当たります。さらに、このコミュニティホールのところの街路灯、駐車場等の整備が平成元年度事業として行われておりまして、総事業費が235万余円、これに対しまして県、市の補助が104万4,000円、44.4%でございます。さらに、平成3年度でございますが、商店街の共同施設整備事業といたしまして、那古商店連盟、これ街路灯10基でございましたが、総事業費135万に対しまして補助金が90万、66.7%です。さらに、北条海岸振興会にやはり街路灯ということで、150万の事業費に対しまして100万の補助で、これも66.7%。商店街関係の補助事業としてはこんなものがございます。

さらに、中小企業の融資の利子補給という制度がございます。これ62年度からちょっと申し上げますと、62年度が融資の状況が17件でございます。それから、補給額申し上げますと、35万4,319円、次に63年度が19件、44万8,231円、元年度は15件、48万9,091円、2年度は12件で52万4,053円、そのほか大型店進出対策資金の利子補給金といたしまして、62年度が3件、63年度3件、元年度3件、2年度4件、以上のような状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 詳しく説明していただきましてありがとうございました。

ただ、私が今お聞きしたいと思ったのが、その前の段階の — 1次産業に対するいろんな事業というのはかなりの額でございますが、それと今の商工業に対する少しばかり補助事業があるようでございますけれども、その比率はどのぐらいですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 44.4%から66.7%の補助率でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私が聞くのは、そういうふうな1次産業の — 例えば漁業ですと、港をつくってこうだとか、魚礁をこうだとか、非常に大きな補助事業があるわけなんだ。そういうのに対して、そういう商工業に対してどのぐらいか、その比率はどうなのかということ。その事業の補助金のあれというのは大体わかります。かなり差がありそうだなと思うから、それをちょっと聞いたわけです。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 第1次産業の方の補助率の関係はちょっと把握しておりませんので、大変申しわけありません。ただ、額の方は相当やはり — 農水業と申しましょうか、そちらの補助関係の方が施設的に非常に大きな額になるかと思います。大体3分の1から — やはりその程度の補助率には — ちょっと把握してないで申しわけございませんが、というふうに存じます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） これはそういうのは、補助事業も本当に比較にならないような数字だと思います。

そこで、ひとつ利子補給をして — 今小さな数字が出ておりましたけれども、私はですから商業者に対するそういった利子補給 — お金を借りる人がどうもわずかなようでございますけれども、その利息が — わずかでも利息

がつくということは大変なんです、商人に対しては。そのぐらいのものは、どうせ利子補給するんだから、無利子の金を使わせてやるぐらいのことはできないものかと思う、私は。無利子にしたって私は総額わずかだと思う。そういうことはどうですか、思い切って。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） やはり例えば今の利子補給にしても、設備資金の利子、あるいは運転資金の利子ということで、1%、2%の補給を市が行っているわけですが、あとの部分は自己負担ということ。ただいまの御質問ですと、それも全額補給しろというふうなお話かと思いますが、現状におきましてはやはり受益者負担というのはいたし方なからう、そんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） いろいろお聞きしておりますと、どうも零細商業者に対する措置は余り——ほとんどと言っていいぐらいないようでございますので、そこで私はやはり館山の人たち全体的——もちろん全体もそうですけれども、商人の人がどうやったら潤うかなという、商圏人口がかなり減っている。昔から随分減っているようでございますので、何か昭和初期には商圏人口が15万とか16万とかということを聞いておりましたけれども、現在の商圏人口はどのぐらいですか、お答えいただきたい。大体、概略でいいですよ。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 8万ぐらいだというふうに推定いたします。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） 私の聞いているところでは、とても8万にいないような数字のようですけれども、いずれにしても半減しているわけです。それですから商店街が寂れるのは当然なんです。

そこで、私はもう一点——これが一番言いたいところなんですけれども、ですから私は首都圏の人たちが何が何でも館山へ行こうじゃないかという、

首都圏の人を呼び込むような目玉を何とかつくってもらいたいということなんです。もちろん館山市は財政が厳しいから、何百億といってもこれはしようがない。本当2けたの、わずかのそれでもいいからそういったものをつくらせていただきたい。私は前からこの海を利用して世界一の大噴水ぐらい上げてくれ。それもたった12億じゃないか。わずか10億ちょっとでもってそういうどぎもを抜くようなことをできるんだからということで私は何回か発言したことございますが、私はそのような館山市を思い切って塗りかえていくような思い切ったことをしていただきたい。

私ももう年でございますので、あとわずかだから、あとわずかの間に私の目で見えるようなことをしてもらいたいということで前から何回も何回も言っているんですが、そういった——私は今すぐということじゃない。そういったような、首都圏の人たちを館山へ吸い込んじゃうような、そういう資源の開発をしようとする。それにはいろんなものがかかりますが、だからそういったようなのを調査研究をするその研究費ぐらいのものを見込んでいただけないか、いわゆるそういったのをやるというにおいぐらい何とかかがせてもらえないかということなんです、その辺どうですか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） ただいまの御質問、御意見でございますが、とにかく道路ができる、水が来るという、今までネックになっておりましたものが平成7年、8年ということでもって解決できるというわけでございますので、当然どうしたらそれらを最大限に活用して館山市へ客を呼べるかということは研究していかなければなりませんので、そういったあたりでの検討は当然していこうと思っております。

◎議長（福原 勤君） 山中金治郎君。

◎15番（山中金治郎君） これ私の言うことはちょっと奇想天外のようでございますので、ここで答弁というのは求めませんけれども、私が本当に一番心配しているのは、今助役さんの答弁の中で、橋がかかって道路がよくなる、水を引いてくる、そうすればよくなりそうだというようなことであろうと思いますけれども、私は今のようなこの商工——2次、3次産業の姿のま

まで交通時間が千葉から1時間ということになったら大変なことになっちゃう。今道路、そういうふうなことが悪くて時間かかるから、逆に泊まってくれるということもあるわけなんだ。ですから、これが今の状態で1時間の距離になっちゃうと、今度は素通りされちゃう。ちょこっと寄ってすぐ行っちゃう。それじゃあ大変だから、何とか館山へ足をとめて、館山へ泊まってくれるんだ、館山でなければ見れないんだというものをやってくれということなんだ。

ですから、そういうふうないつも聞いても建前論みたいなことじゃなくて、実際にそういうふうなことをしなくちゃ館山だめになっちゃうんだから、私はあとわずかだからそれが非常に心配になってしょうがない。ですから、そういったようなものをもう少し前向きに——本当に世論が盛り上がって大きくなったらやろうとか、そんなことじゃなくて、そういうものを行政で火をつけて油かけるぐらいまで私やるべきだと思う。それには、まずその種をつくるのにわずかでいいから調査費を組んでくれということなんだ。

ですから、これは答弁は求めませんけれども、そういうことで今後取り組んでいただきたいということをお願いをして、質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（福原 勤君） 以上で15番議員山中金治郎君の質問を終わります。

次、21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 既に通告をいたしました6点について御質問を申し上げます。

まず第1点は、交通安全と飲酒運転追放についてであります。新しい議会が構成されて間もなく1年になろうとしておりますが、このわずか1年の間に昨年の石井昌治議員、先ごろの植木 馨議員と2度にわたって「議員が飲酒運転で事故」と新聞報道されましたが、大変に情けないことであると存じます。飲酒運転は犯罪であり、「酒を飲んだら運転しない」は良識ある市民のマナーであります。私は議員の一人として、議員各位、各人の自覚ということが第一であるのは当然であります。同時に今はやこのようなことが三

たび繰り返されることがあっては絶対にならないと考えます。

そこで、市議会としてもこの際、自戒を込め、飲酒運転追放決議を提案するものであります。ぜひ御賛同いただきたいと思います。改めて文案を含め提案をしたいと思いますので、その節には御協力をお願いをいたします。

さて、2月28日金曜日に実施された飲酒運転にかかわる交通取り締まりでは、28件もの飲酒運転を摘発したということであります。また、市の交通対策審議会でも、館山署管内では昨年8件の死亡事故があったが、このうち4件までが飲酒運転絡みの事故であったが、全国的には飲酒運転に伴う死亡事故の割合は15%足らずということであり、館山署管内は全国平均の3乃至4倍の率で飲酒運転に伴う死亡事故の割合が高いということが報告されたと同じました。これは大変なことであると思います。私はこの飲酒運転の状況について、市はどのように現状を認識しておられるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、昨年8件の死亡事故のうち4件までが飲酒運転絡みであったとのことではありますが、このことは飲酒運転がなければ死亡事故を半分にすることも可能であったということでもあります。飲酒運転追放は交通安全対策の上でも大変に重要なテーマになっているのではないかと思います。交通安全対策ということで、確かにガードレールやカーブミラーといった各種の交通安全施設の整備等も重要であります。同時に運転者等の心の問題も重要な問題ではないかと思うのであります。酒を飲んだら運転をしないキャンペーン等を強力に進めるなど、この飲酒運転追放についてどのように考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、第2点、高過ぎる館山市国民健康保険税の引き下げについてお尋ねをいたします。「国保税が高い。何とか引き下げてほしい」というのは国保に加入している市民の切実な声であります。しかも、大変高い館山市の国保税ですが、ここ数年間にわたり連続して大幅な黒字を計上してまいりました。例えば、平成2年度は2億3,000万円、平成元年度は1億4,500万円、昭和63年度は2億5,800万円という状況であります。これだけの黒字があれば、当然国保税の税率据え置きにとどまらずに、引き下げは十分に可能であった

ことを示しています。もはや大幅な黒字決算を計上し続けることは許されません。実際に全国の市町村国保では、昨年度で 200 余の市町村が、そして今年度では、現在の調査時点で 300 余の市町村が国保税の引き下げを実施しているとのことでもあります。近隣でも、鴨川市が今年度引き下げを実施しましたし、また白浜町でも引き下げを実施しております。心配していた新年度からの医療費の改定も、薬価の引き下げ等により、実質 1 % 程度のものになりました。国保税の本算定は 6 月の市議会であります。その本算定を前にして、市長の新年度の館山市国保編成についての基本的な考え方をお尋ねをいたします。

まず第 1 点は、昨年度 2 億 3,000 万円もの大幅黒字であったが、今年度の見通しはどうかという点についてであります。まだ今年度は終わってはおりませんが、決算の数字は確定してはおりませんが、既に決算の見通しについてかなり明らかになっているものと存じますので、お示しをいただきたいと思います。

次に、今年度 300 余の市町村で引き下げを実施していると報道がされているわけですが、新年度はこれまでの税率の据え置きにとどまらずに、税率の引き下げをも含めて検討すべきではないかと思うのですが、いかがお考えでありますか。

次に、大きな第 3 点であります。ホームヘルパーの勤務条件の改善と老人保健福祉計画の策定についてお尋ねをいたします。今回家庭奉仕員という従来の名称からホームヘルパーという名称に名称変更するとの条例改正の議案が提案されております。これは単なる名称の変更ということにとどまらず、いわゆるゴールドプランの中でもホームヘルパーの位置づけを改めて見直しをしようとするものと思います。

昨年、全国社会福祉協議会では、厚生省の委託を受けた介護マンパワーイメージアップ検討委員会をつくり、その報告書がつくられていますが、そこでは介護職を社会的に評価が高い専門職として若い人が一生の仕事として選択できるようにするために、給与水準を引き上げ、給与体系を確立することが強調されております。介護職は地道で華やかさはないが、高齢化社会をど

うやって支えていくかを考える創造的な仕事であり、専門的な技術によって支えられている創造的な専門職であるとしておるのであります。特に、在宅の高齢者に対しては、福祉サイドだけではなく、必要に応じて医療や保健のサイドからも援助が有機的に組み合わせられて提供されることが必要であります。ホームヘルパーは対象世帯の暮らしの場での生活そのものを支えるとともに、さまざまな医療、保健、福祉サービス等の中での接点、かなめとしての役割を果たすのであります。まさに家事のできる人ならだれでもというような安易な姿勢ではなく、創造的な専門職として重視していかななくてはならないのであります。

こうした立場から、私はホームヘルパーの勤務条件をその役割にふさわしく、改善をこの機会に進める必要があるのではないかと思うのであります。現在のホームヘルパーの勤務条件は、臨時職員としての身分であります。個々にはそういう条件の方が都合がいいという方もあろうかと思いますが、ホームヘルパーの活動は今後の在宅老人福祉のいわば柱であります。ここがしっかりとしているかどうかということが問われることになるわけであります。

そこでお尋ねをいたしますが、館山市のホームヘルパーは今後も臨時職員で進めていこうという考えに立っているものでありましょくか。私は正規の職員として採用の枠をつくるべきではないかと思うのでありますが、いかがお考えでありましょくか。

次に、老人保健福祉計画についてお尋ねをいたします。いわゆる福祉八法の改正に伴い、市は老人保健福祉計画の策定が義務づけられました。このため、厚生省は老人保健福祉計画策定指針の骨子を通知しております。これには、例えばホームヘルパーによる在宅サービスの目標水準を示してはおりますが、高齢者の日常生活に欠かせない給食サービスや住宅政策などは目標水準すらありません。

館山市は既に65歳以上の人口が20%になろうとしております。大変高齢化が進行していることになります。しかも、例えば三芳村など農村部に比べても、相対的にひとり暮らし老人や老人世帯の割合が高くなっております。県内29市と比較してみますと、高齢化率は鴨川に次いで第2位でありますし、

ひとり暮らし老人の割合はこの鴨川の2倍にもなっており、県内29市の中では断然トップであります。老人福祉計画の策定に当たっては、こうした地域の実情を踏まえた計画を策定する必要があると思うのでありますが、いかがお考えでありますでしょうか。

次に、第4点、国土庁のリゾート法運用の見直しの動向と市のリゾート開発計画についてお尋ねをいたします。私はこれまで繰り返しリゾート開発計画の見直しを主張してまいりました。庄司市長は、市長選挙の際に計画の見直しを公約されたにもかかわらず、残念なことではありますが、私の再三の質問に対して、見直しは不可能との立場をとってこられました。既にリゾート開発は、いわゆるバブル経済の崩壊のもとで、民間活力による事業実施を柱にしてきたため、計画の見直しをせざるを得ないというところが続出をしてまいりました。もうからないために、企業自身が計画の撤回や変更ということに事態が進んでいるのであります。

こうした中で、3月の5日、衆議院土地特別委員会で、我が党の佐藤祐弘議員の質問に対して、東家国土庁長官は「リゾート開発については是正すべきは是正する」とリゾート計画の見直しを検討していくことを明らかにしました。また同時に、小島地方振興局長は「リゾート計画が地に足をつけていないと率直に認めざるを得ない」と答弁をし、現在関係6省庁で問題点の整理をしていることを明らかにいたしました。さらに、総務庁は近く全国的なリゾート開発の問題点についての行政監察を実施する考えを示しました。昨日の報道によれば、そのための6省庁による検討委員会の設置が決められたとされています。大変速いテンポでリゾート開発計画の見直しが進もうとしております。市はこうした事実についてどのように把握し、またどのようにお考えでありますか、お聞かせをいただきたいと思いますのであります。

次に、住民の立場で現在のリゾート開発計画にはどのような問題点があるのか、現状を正確につかむことが住民本位の立場に立つことのいわば前提であらうかと思います。

そこでお尋ねをするわけですが、既に熊谷組の太陽海岸平砂浦計画も、三井不動産などの南たてやまマリンパーク計画も、開発計画についての

内協議が終わって、事前協議の段階と伺います。既にさまざまの問題点など指摘がされているかと思うのでありますが、内協議結果通知書で指摘された問題点は何でありましょうか、御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、太陽海岸平砂浦計画の対象地域には鳥獣保護特別区が含まれておりますが、この鳥獣保護特別区を開発区域とすることは自然保護上大変に大きな問題点があるのではないかと思います、この点についてどのように考えておりますか、お聞かせをいただきたいと思います。

第5点、南房総広域水道事業の市営水道及び三芳水道への配水量についてお尋ねをいたします。平成12年の館山市営水道の受水量は、計画では日量1万 2,320トンとされておりますが、南房総広域水道企業団の総受水量は日量5万 5,060トンであります。これの22.3%を占め、館山市営水道が最大の受水事業体ということになろうかと思ひます。さらに、三芳水道企業団の館山市分を含めれば、館山市が受水量は断然トップということになろうかと思ひます。

さて、その日量1万 2,320トンの受水量についてであります、館山市営水道の1日平均給水量実績は1万 2,449トンであります。ですから、これはほぼ現在の実績、日平均給水量に匹敵する水量であります。南房総広域水道企業団からこれだけの受水をするすれば、夏場などの時期を除けば現在の給水量がほぼ賄えるほどの量であります。果たしてこれだけの需要見通しがあるのでありましょうか。過大な見積もりではないかと思うのでありますが、この受水量の根拠について御説明をいただきたいと思ひます。

また、その見積もりが過大だとしたら、結局はその負担が市民や市財政にかかわることになるのではないかと思うのでありますが、いかがでありますか。その責任について御説明をいただきたいと思ひます。

次に、用水供給料金についてであります、県は県議会での答弁で、九十九里企業団並みになるようにするということで、トン当たり 220円という額を示しています。これは当然計画どおりいったときの料金ということになるかと思ひますが、それにしても、例えば市営水道の供給原価の実績は 162円 38銭ですから、220円ということで用水の供給を受けたとしても、既に現在

の市営水道のコストよりも35%も高いことになります。現在の計画のもとでも市営水道料金はかなりの値上げを余儀なくされることになるのではないかと思いますのでありますが、この計画の結果、市営水道の料金は幾らぐらいの値上げになると考えているのか。また、市の財政負担が過大になるのではないかとこの危惧も感じられるわけですが、どのようなになるのか、御説明をいただきたいと思います。

第6番目であります、市の各種料金への消費税転嫁についてお尋ねをいたします。消費税は、所得のない子供もお年寄りからも税を取り立てる、弱い立場の人ほど税の負担率が高くなるいわゆる逆累進税であります。大蔵省が国会に提出した資料からも、消費税導入によって低所得者ほど税負担が増大したことが示されました。消費税と所得税減税の結果、年収290万円では税負担は30%以上ふえています、逆に年収1,050万円ではマイナスとなっております。減税となったのは年収1,000万円を超える世帯で、1割にもなりません。9割の世帯は増税となったのであります。「弱い者いじめの消費税」と国民の強い批判を浴びましたが、まさにこの批判が的中していたことを明らかにいたしました。国民の批判の声を前にして、政府自民党は食料品を非課税にするなどの見直しを公約していましたが、結局これも一部の手直しで実現しませんでした。再び公約破りをするのかと言わざるを得ません。

今回、市の普通会計における各種使用料に消費税を転嫁しようとする議案が提案されていますが、市長はこの不公平税制である消費税に対してどのようにお考えになっているのでしょうか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、市の各種使用料金について転嫁しようがしまいが、既に消費税は内税として負担していることになります。なぜ殊さらに消費税を取ろうということにこだわるのでありましょくか。実際問題として、転嫁による市民の負担増は幾らと試算しているのでありましょくか、御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の交通安全の問題、小さな第1点目、館山署管内は飲酒運転に伴う交通事故が大変に多いと聞くが、どう認識しているかとの御質問でございますが、これは管内の運転者を含め、住民の飲酒運転に対します危険性、反社会性の認識の問題でございます。今後、住民個々のモラルの向上を図ってまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、飲酒運転追放についてどう考えているかとの御質問でございますが、市といたしましては引き続き館山警察署、館山交通安全協会等関係機関と十分な連携をいたしまして、交通安全期間を含めまして、随時チラシや関係広報紙への掲載、広報車による街頭広報等の広報啓発活動を強力に推進し、地域総ぐるみで飲酒運転「しない・させない・ゆるさない」の飲酒運転追放三ない運動の実践を推進し、飲酒運転追放機運の醸成を図ってまいりたいと考えております。

なお、取り締まりにつきましては、館山警察署にさらに徹底した取り締まりを強く要請してまいります。

御質問の大きな第2点目、国民健康保険に関します第1点目、国民健康保険の今年度の決算見込みについての御質問でございますが、現在のところ冬期分の医療費の支払いを残しているところでございます。11月診療分までにつきましては前年度並みに推移している状況でございます。

次に、小さな第2点目、来年度は税率引き下げを検討すべきではないかとの御質問でございますが、館山市といたしましては、医療費改定の影響、老人保健拠出金の増などが見込まれますが、基本的には税率の引き上げだけは極力避けたいという考え方でございます。

次に、大きな第3の小さな第1点目、ホームヘルパーの正職員化を進める必要があると思うがどうかとの御質問でございますが、介護マンパワーの確保は重要な課題であると認識しております。市といたしましては、現在の雇用形態で支障ないものと考えておりますが、今後老人福祉計画の策定の中で検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、老人保健福祉計画は地域の実情を踏まえたものとして策定する必要があると思うがどうかとの御質問でございますが、平成3年11月に国は老人保健福祉計画策定指針の骨子を示しましたが、現在この骨子に対する各地方自治体等の意見を聴取し、平成4年度に策定指針を示すことになっております。これを受けまして、県と市町村と十分協議しながら、平成4年度で現状把握を行い、平成5年度中に計画策定の段取りとなっております。市といたしましては、関係機関等とも十分協議しながら、地域の実情を踏まえて計画策定に努力してまいりたいと考えます。

次に、大きな第4の小さな第1点目、リゾート法に関する国土庁の動向をどのように把握しているかとの御質問でございますが、一部新聞報道により見直しが論じられている模様ですが、この件に関しましては国及び県からの話は一切ございません。今後国、県の動向を見きわめて対応してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、太陽海岸平砂浦計画及び南たてやまマリナーパーク計画の内協議に基づきます指摘事項についての御質問でございますが、その内容は環境保全に対するもの、防災安全に対するもの、文化財に対するもの、ゴルフ場の無農薬に対するもの等でございます。

次に、小さな第3点目、鳥獣保護特別区域に関する御質問でございます。鳥獣保護特別区域は原則的に開発区域に含まない方向でございますが、太陽海岸平砂浦計画では、鳥獣保護対策を図るため、野鳥の池、野鳥観察舎及び進入路を兼ねた野鳥観察路が特別区域内に計画されております。

次に、大きな第5の南房総広域水道事業に関する小さな第1点目、配水量の見積もりの根拠は何かとの御質問でございますが、水需要の予測といたしましては、厚生省の通達により、水道施設設計指針に基づき、統一的な考え方及び手法によって推計するものとされております。これにより、県と協議の上、平成22年度における館山市の将来人口を6万400人と設定し、給水量の予測については生活様式等の変化による増加量及び新規需要量等を推計いたしました。その結果、市営水道におきましては、平成12年度における計画給水人口は4万3,275人、計画1日最大給水量2万9,020立方メートルにな

るものと予測しまして、このうち受水量は1万 2,320立方メートルでございます。給水人口の伸び率は18%であり、1人1日最大給水量 671リットル、総合保養施設等の新規需要量約 4,000立方メートルと予測しております。

次に、小さな第2点目、見積もり違いに対する責任はどうかとの御質問でございますが、現段階では新たな水需要量を的確に見込んで算出しておりますので、適正な見積もりであると考えております。

次に、小さな第3点目、水道料金へのはね返りと市の財政負担の見通しはどうかとの御質問でございますが、水道料金につきましては、南房総広域水道企業団の用水供給単価を1立方メートル当たり 220円程度に抑えたいとの考えが示されております。今後この企業団の供給料金決定を受け、館山市の拡張事業費とあわせ原価計算の検討を行い、料金算定を行いたいと考えております。

なお、南房総広域水道企業団の出資金につきましては、事業費の変動及び国庫補助金採択状況等により変更も考えられますが、平成12年度までの館山市の出資金は約38億円程度と予定されます。この財源として出資債を充て、この元利償還金に対しまして、2分の1の普通交付税の措置が講ぜられます。

次に、大きな第6の小さな第1点目、消費税に対する考え方についての御質問でございますが、国の税制改革の一環として消費税法が施行されましてから既に3年を経過しようとしているところでございます。御案内のとおり、この間国政の場において幾度となく論議され、昨年10月から消費税法の一部を改正する法律が施行されたことによりまして、国民の間に消費税は定着したと認識できる状況になってきております。また、消費税につきましては、国民の間に存在すると見られます重税感あるいは不公平感を取り除き、所得、消費、資産の間で均衡のとれた租税体系をつくることを基本に導入されたものであり、かつ消費譲与税や地方交付税等、地方公共団体の所要の財源として歳入に計上されてもおりますので、この消費税に対します見解等の御質問につきましては、市長としては申し上げる立場にないということで御了承賜りたいと思います。

次に、小さな第2点目、転嫁による市民の負担増についてでございますが、

今回提案しております館山市の平成4年度一般会計歳入予算で試算いたしますと、約180万円が消費税相当分の増額収入となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 飲酒運転の追放にかかわる問題でありますけれども、住民のモラルの高揚を図っていききたい、またそのために追放のための啓発活動を大いにしていこう、こういうことでありますけれども、非常に現況は飲酒運転に伴う死亡事故が、重大事故が多いということで、極めて大きな問題だろう。飲酒運転の結果、重大事故の中で占める割合も大きいということとでありますから。

交通安全都市宣言を昭和40年に館山市はやっておりますけれども、飲酒運転追放都市とか——暴力追放都市宣言をやって、いよいよ3月1日から暴力団新法もできましたけれども、またこの暴力団新法では、館山市がそういう点では先駆けて暴力追放決議をしたということが大きな意味もあったらうと思いますけれども、こうした飲酒運転を追放するという意味で都市宣言などを考えたらいかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいまお話のとおり、昭和40年に交通安全都市宣言をしておるわけでございます。確かに飲酒による事故、死亡事故等がふえておりますので、今後市の担当課といたしましても十分このような事故等がないようにしていきたい。対応を図ってまいりたい。また、宣言につきましても、議会の皆さんとよく御相談の上、協議をしてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 国保税の問題でありますけれども、11月までで前年度並みという、そういう今の状況ということで、市長のお話では税率の引き上げだけは避けたい、こういうお話でありました。去年の3月市議会でも私同じ質問しているんですね。そのときには、決算がまだ確定をしておらない。しかし、何としても値上げだけは極力避けたいと言って2億3,000万円

黒字だったんですね。また同じ轍を踏みたくないわけなんですよ。値上げだけは避けたいというんではなくて、それでも去年は2億3,000万円の大黒字が出たんですよ。またことしも2億円もの大黒字が出たんだとしたら、何をやってたんだということになるわけですよ。ことしはこうした大黒字が出るんだ。11月までの決算の数字では大体去年並みの推移だ。私も今ちょっと風邪を引いていますから、3月は風邪が多くはやっているんだろうと思うんですけども、そういうことで医療費が去年より多くなる要素もないわけじゃないと思いますけれども、しかしそれにしてもかなり大きな決算の数字で見込まれるんだということになれば、これはもう値下げを含めて検討するんだ、こういう姿勢にもう一步踏み込まないといけないんじゃないか。その辺はどうお考えですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国保税の引き下げにつきましては、昨年の6月議会、12月議会等でもいろいろ議論されたわけでございます。

まず、ただいまのいわゆる平成3年度の決算の状況でございますけれども、11月までは前年並みに推移しているわけでございますけれども、医療費の問題は、確かに以前ですと、一風邪1億とか一風邪5,000万とかというようなことが言われているわけでございます。そういうことで、大変この医療費の残りの12月、1月、2月、3月、この4カ月の動向に非常に関心を持っているわけでございます。そういうことが1つはございます。

それともう一つ、先ほど神田議員からもお話がありましたけれども、平成4年の4月から改定を予定されております医療費の問題でございますが、診療報酬の問題でございますけれども、これが近年にない高い伸びということでございます。平成2年度実質1.0、63年実質0.5、61年0.5、60年1.4、そういう中で平成4年度は2.5という数字で改定が予定されているわけでございます。そういうようなこと。それと、やはり老人の保健の拠出金、この20%の限度の問題、さらに特別調整交付金の引き下げの場合の受け付けられないという国の姿勢の問題、そういう問題があるわけでございます。そういう状況をよく見きわめた上でやはりいろいろ検討をなされていかなければい

けないんじゃないかというふうに考えております。

したがいまして、市長が先ほど申し上げましたとおり、税率の引き上げだけは極力避けていきたいということで現在のところ進んでおります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そうすると、この引き下げについては検討にもならぬ、どんなに決算で黒字が今後出ようとも検討の対象にもならぬというふうに今の答弁だと受けとめざるを得ないんですけれども、本当にそうなんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいま申し上げたのは、そういう国保の状況をしっかり見きわめて考えていかなければいけない。したがって、現時点では引き上げだけは極力避けたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） よく見きわめたら引き下げもあり得るというふうに理解をしいんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 税率の引き上げだけは極力避けたいということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） なかなか言いませんね。しょうがないですね、それでは。また委員会の中でこうした問題も詰めて論議をしていきたいと思えますけれども。

ホームヘルパーの問題でありますけれども、現在のところは問題がない、こういうようなお考えであるということは私問題だと思います。現在のところ問題がないというふうに言われていますけれども、これまで臨時職員ばかりじゃなかったわけですよ。一定の市の職員という形で、正規の職員で雇った方もいた。しかし、どんどん、どんどん臨時職員の方をふやしてきている。これはしまいにはもう臨時職員だけでやろうというふうに――私にして

みれば、こういうことはむしろ逆行なんじゃないかなという懸念を持っているわけなんです。そういうふうにしてきたことを問題はないというふうを受けとめているというのは大変大きな問題だ。

今、ホームヘルパーの問題の位置づけなんです。今回ホームヘルパーということで名前も変えるというような——イメージアップ作戦なんでしょうけれども、ということが行われている。ホームヘルプというこの仕事をもっと社会的に価値のある仕事としての位置づけをしていこうじゃないか、そういう意味合いが非常にあろうかと思うんです。そういう点から、若い人が自分の一生の仕事としてホームヘルパーを選べる、選択できる、そういう職業としての位置づけがなければ、これからのこの老人福祉の問題を考えた場合にうまくいかないんじゃないか、こういう点がやはり欠けているんじゃないかと思うんですけれども、その辺いかがお考えなんですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 確かに御指摘のとおり、昭和43年に当時から見ますと本当に全国に先駆けてこの家庭奉仕員制度をつくったわけでございます。そのときはいわゆる正規職員であったわけでございますけれども、いろいろこの24年間で社会情勢といいますか、いわゆるホームヘルパーになる方、受ける方、また社会の情勢が変わってきてございます。そういうことで、現在は正規職員1名、臨時職員12名で対応しているわけでございますけれども、私どもがこの正規職員にするかどうかということのまず基準といたしますか、物差しの中で、国の基本的な考え方、これがどうかというものがあるわけでございます。ことしの2月に厚生省の老人福祉計画課がつくりましたホームヘルプ事業の運営の手引というのがあるわけでございますけれども、その中でいわゆるホームヘルパーの採用については、常勤、非常勤を問わず、地域の実情に応じ、幅を持った勤務時間、体制を整える必要がある、こういうふうな形でうたわれているところでございます。したがって、県内の状況の中でも正規職員といわゆる臨時職員、いろいろばらつきが事実あるわけでございます。

そういうものを踏まえて、市のこれからのホームヘルパーに対する考え方、

これを検討して見直していかなくちゃならぬ。それは先ほど市長から話しました館山市の保健福祉計画の中で、いろいろサービスの目標値等もありますんで、それを検討してこの正規職員、臨時職員の問題を考えていきたいというふうに基本的に考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 昨年の予算委員会の中でも大分論議があったようですけれども、ホームヘルパー — これから老人福祉の中で、いわゆる福祉ばかりか、保健だとか、あるいは医療、こういうところを総合的に計画をつくって老人に対する福祉施策を進めていこうというところで、現場的に見ると、このホームヘルパーというのが大変重要な役割を果たす。実際に福祉の視点だけではなくして、あるいは医療の視点だとか、あるいは保健の視点ですね。毎日毎日お年寄りのうちへお伺いをして、いろいろ家事の面倒も見ながら、健康の状態であるとか、あるいはこの状態では入院の必要があるのではないかという判断をしなければならぬとか、日常の健康に対する指導の問題ですとか、そういうレベルでのやはり活動というか、ということが今後期待されると思うんですよね。

そういうことで、介護士ということで資格なども整備されてきているという中で、やはり家事のできる人ならばだれでもというのも — ある意味での手軽さもあるし、そういう考え方が必要な面も私はあろうかと思います。しかし、基本的にはこうしたホームヘルプ活動の柱に座るのは、正規の職員としてきちんとした研修も受けて資格も持っていけるような、一生の仕事として若い人が取り組めるというようなものとしてやはり考えていく必要がどうしてもあるんじゃないか。そういう意味で今後検討していくということによってほしいんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 結構でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 老人保健福祉計画についてお尋ねをいたしたいと思うんですが、地域の実情を踏まえてこの計画はつくらなきゃいかぬという

ことになっているわけですが、そこで地域の実情について — いろいろあろうかと思いますが。これから調査をするということもあろうかと思いますが、現状でこの地域の実情という点でどういうふうに認識をされておられるのかお聞かせをいただきたいと思うんですが、65歳以上のお年寄り、これが人口に占める割合が19.3ですか、ほぼ20%ということで、県内29市の中で鴨川に次いで第2位、こういうことで、大変県内でも一、二を争う高齢化が進行している。

しかし、その中でも特徴的なのは、鴨川に比べるとひとり暮らしのお年寄りの割合が約2倍ですよ。それで、私が調べたあれですと、この館山市のひとり暮らしのお年寄りというのは971人ということでありまして、例えば松戸 — これ45万人の人口のいる市ですけども、ここですら694人ですよ。館山市の中で松戸よりもたくさんのひとり暮らしのお年寄りが実数でいる。率にすれば、十何倍という割合でひとり暮らしのお年寄りが松戸に比べればいるんですね。大変な数だろうと思うんです。この館山市でひとり暮らしのお年寄りの比率が高いというのは際立った館山市の特徴だろうと思うんですね。こういう点についてどのようにこうした実情をとらえられているのか。

私が調べた限りでは、県内29市の中ではトップでありますよ。安房郡市で比べても非常に特徴がありまして、鴨川なんかは館山の半分ですよ。非常に65歳以上のお年寄りの割合は多いけれども、その中でひとり暮らしのお年寄りは割と少ない。館山市は鴨川に比べて約倍ぐらいひとり暮らしの方が多いんですね。館山市と同じ傾向を持つのが白浜町と鋸南町、何か浜っ端の方がそういう傾向が多いのかなという感じがするんですけども、三芳だとか、そういう農村部に行くと少ない。そういうことで、安房郡の中でも非常に特徴が出ているんですけども、館山市の特徴は県内でも非常にひとり暮らしのお年寄りの割合が高い。老人世帯の割合が非常に多い。こういう特徴を持った市だからこそ、老人福祉のこの施策についてでも緊急性がある。非常に緊急性がある。また、重要性があるということになろうかと思うんです。その辺どういうふうに認識をされておるのか、お聞かせをいただきたいと思い

ます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現状認識の中でございますけれども、まず確かに高齢者の比率、またひとり暮らし多いわけでございます。ただ、先ほどもちょっとお話ししましたけれども、館山市ではそういう — 昭和43年からホームヘルパー、家庭奉仕員という制度をいち早く取り入れまして、その中のノウハウとか、そういうものはかなり蓄積で持っているわけでありまして。また、人数も一応13名ということで、鴨川やほかの市と比べてもう比較にならないほど多いわけでございます。中身もかなり濃密なヘルプができていると考えてはおります。

ただ、これからの国が示した市町村の老人保健福祉計画の骨組み、スケルトンの中でいろいろ目標とか、そういうものが出てきているわけでございます。そこで、そこらをあわせながら、また県とかこの安房郡市 — といいますのは、県で作成する保健福祉計画は第2次医療圏でやるという計画でございます。そういうことで、安房郡市一応協議をしながら、こういう共通の問題については今後研究し、検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 私はこれまで繰り返しいろんな場で老人世帯への給食サービスという問題を取り上げてきたのも、だてや酔狂じゃなくて、こういう実情があるからこそなんですよね。非常に館山市がひとり暮らしのお年寄りの比率が高い、そういう現状。県内でも断トツという、こういう特徴があるから — 確かに昭和43年、館山市が全国に先駆けてホームヘルプサービスを開始したというのは大変重要な意味があるかと思っておりますけれども、しかしこういう今の実情の中だからこそ、給食サービス、非常に重要な意味や役割を持っているんじゃないか。

現在の老人保健福祉計画の中ではこうした視点というのは全く入っていないんですよ。一応の現在示されている目標水準の中に示されていないわけです。そうすると、今の老人保健福祉計画の中でこうした施策 — かなり高い水準の福祉が求められるものもありますけれども、こうした事業について

はこういう中で検討をされていくテーマになるんですか。するおつもりですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 当然検討されていくと思います。具体的には、骨格の中でサービスの実施の現況というところに、5番目にいわゆるシルバーサービス、住民参加型サービス等の実施状況——これは公的サービスに限らず、訪問看護を含めた福祉ボランティア、農協、漁協、生活協同組合ですか、そういうものについても積極的に盛り込むことということでこの骨格の中でも示されています。そういうことで、当然給食サービスも入ってくるというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） リゾート法の関係に入りますけれども、12月の市議会の中で、日本開発銀行がリゾート開発については非常に経済波及効果はないんだ、極めて少ないんだというような問題点を指摘しているということ、そういうことについてどう認識しているかというようなことで御質問いたしました。こうした問題が——今リゾート法のいわゆる見直しの世論となってきた問題が、非常に財界を含めてそういう世論が出てきたという、そういう段階をもう既に飛び越えて、今の国会の中では国自身、政府レベルの話として、国会での答弁の中で、次々にこのリゾート開発について見直しをする、新年度ではそういうことで、踏み込んだ行政監察の方向も検討する、新年度の中で6省庁で問題点の整理をする検討委員会をつくる、こういうところまでいっているんですね。

新聞報道しか知らないというんですけれども、国の動きというのは非常に速いテンポで、リゾート開発についての見直しの段階、この論議が急速に進んでいるんです。新聞程度で知らないというんだと本当に困るんですけれども、こういう中で市としては県の動向あるいは国の動向ということで、何らから通知が来ないから知らないよということでは済まされないんじゃないかなと思うんですが、こうした状況、情勢の把握についてどのようにしているんでしょうか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの新聞報道に関しましては、これ3月1日ですか、私も読みまして、存じ上げています。

ただ、答弁の中にごさいましたように、私の方は県の方へも問い合わせしております。そういうふうな方法をとっておりますが、現在のところ県の方は国にも問い合わせ、そういう動きはないというふうなことで私の方は聞いております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） そんな動きがあるんです。国会で実際に答弁という形でされましたから、3月5日の日に。これはもう新聞でも報道されておりますから。我が党の佐藤祐弘議員の質問に対して国土庁長官が答弁をしています。お調べになっていただきたいと思うんです。

ですから、これはどういう形で見直しが進むのか、今後非常に注目をしなきゃいけないので、そういう点を含めて十分状況の把握を的確に行わなきゃならないということで、その辺をきちんとしていただきたいと思います。

そうすると — 水の問題でありますけれども、人口が6万400人にふえるんだよ、こういう見通しでこの水の需給計画を立てましたと、しかも1人当たりの水の使用量はふえますよ、こういうふうに見込んでいるんですよ。これ見込みなんですからけれども、大体過去10カ年、人口は館山市の場合は国調でも減っているんですよ。したがって、本当にこれがふえるかどうかということは、当たるも八卦、当たらずも八卦という要素がこれはあるわけですよ。大変大きな問題だろうと思います。しかも、1人当たりの水の使用量が伸びるということについても、これもどうも納得がいけないんですけれども、非常に危険なかけなんじゃないかなと思うんです。水の使用量というのは、これはある程度目標値を設定しなきゃいけないんですけれども、この数字については責任を負わなきゃいけないわけですよ、結局そのことで負担をするという形でかかってきますから。そういうことでよろしいんでしょうね、責任を負うということ。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） この受水量につきましては、今後の状況変化によっては水道事業体の受水量に変動が生じる場合が考えられるわけございまして、その場合は費用問題等も含めて構成市町村において協議していくんじゃないだろうか、このように考えております。現在ではこの数字は的確な数字だということで事業を進めている状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 現在は的確と思っているからやるんですけども、結果で責任を負わなきゃいけないということになろうかと思います。今のリゾート開発関連で4,000トンを見込んでいたという話でも、もう暗雲立ち込めてますよね。リゾートの問題については見直しだということが国で論議がされ始めた。これは一体どうなるのか。それによってはこの水量は半分になるかもしれませんという、そういう要素を持っていますから、全くわからないですね。

それで、県は220円ということで用水供給をできるようにいたします、これは議会での答弁という形であるわけですが、それでは館山市営水道はこの水道事業をやった結果、市民に対しては幾らで水を供給するということについて責任ある発言はできないんですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 市の水道料金でございますが、過去の実績ですと、55年に39.5%、それから60年に17.88%の水道料金の値上げをしているわけございまして、先ほど神田議員さんから御指摘ございました受水量プラス給水原価で単純に割りますと386円72銭、これを2分の1にしますと約16%になるわけでございますが、なお拡張費用がこれにプラスされるわけございまして、事業費の進捗、あるいは企業債の借り入れの利息、利率等に変動が生じる場合が出てくるわけでございます。これを2倍に見ましても30%という程度になるんじゃないだろうか。これも——やはり受水量についても、毎年の賦課率によって——一気に1万2,320トンを受水するわけじゃござい

ませんので、ここらを勘案しながら、その10%前後を3年間隔ぐらいでというような——一つの概算でございますが、そのような目安を持って今後検討したい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 非常にこれは微妙なところですが、要するに30%程度の値上げというものは、これは現在のところ当然のことだというふうに考えておる、こういうことで理解していいですか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） まだ試算の検討は入ってございませんけれども、概略そのくらいを目安として立てておるということでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時より再開いたします。

午前11時59分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

7番議員鈴木順子君。御登壇願います。

（7番議員鈴木順子君登壇）

◎7番（鈴木順子君） 質問に先立ちまして、去る1月30日に御逝去されました当館山市前市民課長でおられました故溝口長子氏に弔意を申し上げます。出席される方のほとんどが男性の議会や委員会におきまして、唯一顔を合わせる女性がいるということで、私はどこかほっとするような思いでありました。若くして亡くなられたことは残念でございますが、心より御冥福をお祈り申し上げます。

それでは、質問に入ります。私の質問の中に神田議員さんと重複するものが何点かございますが、重要な問題として受けとめていただき、あえて再度の御質問をさせていただきます。

それでは、既に通告をしてございます6点につきまして順次御質問をいたします。3月定例議会初日の庄司市長の施政方針を受けまして、新年度にもかかる問題等を含めましてあらゆる角度から伺っていきたいと思います。

まず、第1点目でございますが、市長の政治姿勢を伺います。館山市もさまざまな諸事業が打ち出されており、住民の目にも、少しずつですが、館山の未来というものが見え始めてきたという方もいらっしゃると思います。また一方では、多くの住民は働くことが精いっぱい、なかなか自分が住んでいる市の抱えている問題など知ったり考えたりすることができにくくなっているというお考えの住民もいらっしゃると思います。そんな中で、去年の文化ホールの誘致運動に見られますように、市民参加で館山を考えていくという動きがあったことは市民にとっても私たちにとっても大変な励みになったところでは。

そんな折に、去る2月21日の新聞報道は私も市民にとっても大変なショックを受けました。報道そのものは御存じのように議員の不祥事記事でありましたが、市長と市議の懇親会があったこと、飲酒の上での事故であったことが報道されていましたが、この報道での懇親会は行われたのか伺います。

次に、2点目でございます。この4月1日より育児休業法が全面施行されますが、休業中の賃金補償など、幾つかの問題点を抱えていながらのスタートを余儀なくされているところですが、一つの懸案であった保育所の問題があるかと思います。先日3月5日に厚生省が各都道府県に対し通達を出したということですが、育児休業による保育所の退所問題がありました。条件つきながらも継続して通うことができるようになったということが明らかになっております。また、職場復帰に際しましても再入所がしやすくなっているという内容のようですが、市内保育所の対応は国の指導どおりに実施することではよろしいのかお伺いをいたします。また、条件つきながらとしている点ですが、どういう条件なのか具体的にお聞きをいたします。また、職場で育児休業をとった場合の補充の職員はどうかあわせて伺います。

3点目でございます。地元での働く場が失われている現実に対してでございます。過疎化対策の一つともされ、産業振興対策としてインダストリアル

パーク計画がありますが、この事業により地元での雇用をどの程度市は見込んでいるのかお伺いをした上で、今地元で働いている方々の仕事が職場の合理化による統廃合などで遠距離通勤を余儀なくされている実態がありますが、ＪＲがこの３月のダイヤ改正時に大幅な要員削減を提案されております。私たちが利用をしている内房線でも、線路の保守作業を行っている館山保線区で８名減の提案がされております。木更津への統廃合ということですが、この要員削減によって起こる問題の一つに安全面の問題があります。

保線区の職場では、私たちが安心して目的地まで行けるようにと日夜線路の巡回作業を行っておりますが、国鉄当時は４日に１度の巡回、ＪＲ発足時は２週間に１回、そしてこの削減提案によりまして月に１回の巡回となるとされております。巡回作業を行っている方に聞いた話でございますが、「徒歩巡回箇所では線路をつなぐ継ぎ目板が外れ、ボルト４本が抜けそうになっていた。信楽高原鐵道の惨事を思い出し、寒気がした」ということを聞きました。「こんな状況では利用客の安全は守れない」と言っております。

内房線や館山鴨川間、観光客にとっても—— 私たちにとっては生活線でございます。しかしながら、御存じのように大雨や台風のときはすぐに運休になってしまいます。安房郡市が孤立をしてしまうような状況の中で、ＪＲ千葉支社に対し改善を申し入れる必要があるのではないのでしょうか。先ほども申し述べましたが、市にはインダストリアルパーク計画がありますが、今起こっている雇用を守ることがまず先決だと思うのですが、いかがお考えでございましょうか。これらの状況をお考えの上で、市としてＪＲ千葉に雨に強い内房線の確立と、乗客の安全の確保のための保守点検要員の削減をしないよう申し入れを行っていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

第４点目でございます。行政などの場にもっと女性を登用したらどうかでございまして。また、あわせて市長自身の考え方につきましても伺いたいと思います。

女性の社会進出がふえてきていますが、当市でも昨年秋、任期切れでおやめになりました教育委員の女性がおられ、前市民課長が女性でありました。いずれも後任は男性にかわられた経緯がございます。県でも昨年女性の部長さ

んがやっと登用されました。私の昨年度の調査ですと、県北関係になります
が、係長以上の女性職員は、役職職員対比率といたしまして、習志野市が26
.2%、八千代市13%、浦安市17.9%、佐倉市18.2%と1けた台はわずかにな
ってきております。昨年秋の同調査ですが、県内の教育委員数は5.5%とま
だまだ低いようですが、女性校長は全県で47名と聞いております。民間の職
場でも着々と女性の地位向上が進んできていると言われております。この際、
市でも行政の場などに女性を登用されるように希望をいたしますが、いかが
でございましょうか。

第5点目でございます。パート労働者が安心して働けるように、相談や制
度などを知らせる場をつくったらどうかでございます。パート労働者といっ
ても女性ばかりではないわけですが、自分が働く上での制度なども知らずに
いるのが実態ではないでしょうか。

パート労働者の組合であるのはなユニオンが年2回パート110番を実施
しておりますが、結果を見て、一番多い相談が税金関係、次いで休みの問題、
労災問題、賃金未払い問題、その他となっております。特に、非課税対象額
が年間100万という制度は皆さん一番の悩みのようですが、「課税額に達し
ないように働いているが、そのために休むと正社員から文句が出て、いつら
なくなってしまう」と訴えております。

同ユニオンが昨年12月、県議会で請願提出をいたしまして審議され、働く
上での基本知識や労働条件を解説したパンフレットを公共施設に置き、だれ
も見られる状況づくりをする。また、県民だよりにコーナーを設け、必要
な情報を随時載せることなどの回答をいただきました。

そこでお伺いをいたしますが、市ではパートタイマーさんへの解説冊子
— あると思いますが、どういう形でお知らせをしているのか伺いたいと思
います。

最後の質問になります。6点目でございます。保健福祉計画についてで
ございますが、昨年11月に厚生省から出されました「老人福祉計画策定指針の
骨子」が各自治体におりてきていると思います。各市町村はこれに対し、来
年度、新年度中までに地方老人福祉計画の策定をしなければなりません、

そのための調査をすることとなっております。どの程度の進みぐあいでしょうか、お伺いをいたします。

どのような福祉計画になるかは各市町村により異なると思いますが、高齢化率、財政力、交通網などの条件によって計画は左右されるところですが、何よりも大事なのは住民がどのようなサービス、ケアを望んでいるかだと思います。住民の要求は何なのかを調査することから始めなければ高齢者の本当の願いは埋もれたままになってしまいます。各市町村に福祉計画の策定を任せられたのは、地域に根差した生の声を計画の中に反映させるためには絶好の機会ではないでしょうか。住民に最も身近な市町村でサービスがきめ細かく計画的に提供される体制づくりを進めるために、より多くの声を聞き、現状をしっかりと見て計画が策定されるように願うものでございます。

県では市町村に対し、市町村のガイドラインを早く県に上げるように言っているということですが、当市はいつまでに上げるのでしょうか、お伺いをいたします。

以上でございますが、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、私の政治姿勢に関しての御質問でございますが、私は市民のための開かれた市政、この実現を目指しまして精いっぱい努力しているところでございます。

お尋ねの件につきましては、私自身が市議会議員の有志の方々との懇談会に出席いたしました。

次に、小さな第2点目の育児休業法施行に当たり、受け入れ態勢はできているかとの御質問でございますが、従来の育児休業に関する法律が廃止となりまして、新しく地方公務員の育児休業等に関する法律が施行されますので、館山市におきましても平成4年4月1日から実施すべく、今回の議会にお願いしているところでございます。従来は対象職員が限られておりましたが、

新しい法律は一般の職員も対象としております。

育児休業職員の補充につきましては適時適切に対応しております。保育園におきましても、育児休業保母の補充、または保護者の育児休業中の園児につきましては引き続き措置をまいります。

次に、小さな第3点目、館山インダストリアルパーク計画についての御質問でございますが、開発面積につきましては約69ヘクタールを予定しております。雇用の見込みといたしましては、おおむね1,500人程度を見込んでおります。導入計画業種といたしましては、今後検討すべき課題ではございますが、公害の心配のない業種を予定しております。

なお、JR支社保守点検要員につきましては、今初めてお伺いいたしましたが、これはJRの乗客の安全確保は絶対的な要件でございます。また、JR——これは全県的な問題かと思えます。大いに協力していかなければいけないと考えております。

次に、小さな第4点目の女性の登用をと思うがどうかとの御質問でございますが、管理職等の登用及び職員の採用につきましては、適任者と思われる人材であれば女性、男性問わず登用並びに採用する所存でございます。大きな目で見ていただきたいと考えます。

次に、小さな第5点目のパート労働者に関する御質問でございますが、近年パートタイム労働者が増加してきておりまして、今や経済社会において欠くことのできない重要な存在となっている反面、いろいろな問題もございます。労働省は平成元年6月に労使を初め関係者が考慮すべき事項としましてパートタイム労働指針を定め、また県におきましても各支庁単位に労働相談所を設置しているところでございます。館山市といたしましては、各関係機関と連絡を密にしまして周知してまいりたいと考えております。

次に、小さな第6点目、地域保健福祉計画はどのように進んでいるか、どのように進めていくかとの御質問でございますが、神田議員にお答えしたとおり、平成4年度で現状把握、平成5年度中に計画策定、この段取りとなっております。市といたしましては、県と十分協議しながら、福祉と保健、医療との連携推進の観点を踏まえまして、老人福祉計画と老人保健計画とを一

体のものとして、平成5年度中の計画策定に努力してまいります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 再質問させていただきます。

まず1点目ですが、この懇親会の件ですが、先ほど神田議員さんからもお話がありました。本当にお酒を飲む席というのはいろんなのが——私も議員になりましてから正直申し上げて結構あるなという認識を持っているんですが、そういう席に市長さんも同席したということで、有志の方という発言がございましたが、少なくとも私自身はこのお話は全く知らないことで、本当に驚いたところなんです、その参加なさった市長、議員の有志の方、例えば市の部長さんですとか、そういう方も一緒にいらっしゃったのか、その辺をお聞かせ願いたいんですが。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 鈴木議員の御質問の前提にございました時間が大分ずれておりますけれども、夕刻、議員の有志の方々と私初め市の幹部が出席しまして懇親会を行いました。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 市の幹部と市議の懇親会ということで理解してよろしいんですか。ただ、その市議ですが、どういう方が対象だったのかお聞かせ願えますか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 有志の方でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 何か有志の方というお答えで、それ以上何か先に進まないようなんですが、私もこの問題につきましては多くの市民の方からおしかりを受けたわけです。あの新聞報道によりますと、本当に市議全員が市長さんと懇親会をやっていたようにもとれるわけです。

それで、私自身も参加をしていたんじゃないかということでおしかりを受

けたというのは、一つには非常に時期的な問題もあったということを御指摘を受けました。この懇親会を行った日ですが、たしか19日というふうに思いますが、この日には全員協議会が招集されまして予算説明を受けているわけです。この懇親会がこの日になぜなったのかということでは市民は非常に疑問を持っている。ちょっと考えれば、疑問を持っている方々が角度を変えて考えてみれば、予算を通してもらうために出席をした、懇親会をしたというふうにとられても仕方のないようなことではなかったのかなというふうに思います。

私、今後のあり方も含めまして、やっぱりこの際市長自らこういうことはもうしないというような表明を、市民に疑問を持たれるようなことはしないというような表明をされてもいいんじゃないかと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 御意見は拝聴いたしますが、私も議員の皆さん方も明るい館山市政、市民の生活の向上を願い、これからの新しいまちづくりのために立ち上がってきた方々、市民の信託を受けている方々、その行政の責任者と議員の方々が随時随所に意思の疎通を図り、情報を交換することは必要であると認識しております。

ということで、こういう事件があり、報道されたからということで直ちに自粛どうのというのは直接これ関係ないと思いますんで、問題は別じゃないかと思うんです。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） じゃあちょっとお聞きしますけれども、市長と問題の事故を起こした議員ですが、同席をして一緒に飲んだということは事実ですね。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 時間が大分ずれていますけれども、夕刻は一緒にございました。その当該時間は存じません。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 一緒であったということで、やっぱり市民サイドから申しますと、私も含めてそう思います。やっぱりそういう席で一緒に同席をしていて、その上で事故を起こしたということになりますと、やっぱり市長の自らの責任というか、そういうことはお考えになれないでしょうか。やっぱりこれは — 市長が先ほども申しましたが、市長も議員も新しいまちづくりのために意思の疎通を図るという認識をしているということでしたが、やっぱり市長自らの政治姿勢がここにかかわってくるんじゃないかなというふうに私は思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 申し上げましたとおり、夕刻同席したのは事実でございます。懇親会を持ちまして話し合いをいたしました。時間が相当ずれています。その後半の分については私にはちょっとわかりませんので、御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） ということは、これは何ら市長は関知しないということではよろしいんですか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） これは市長という立場でいいとか悪いとかいう価値判断すべき問題じゃなくて、最後は個人の問題でございます

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） わかりました。

ただ、この際申し上げておきますことは、この報道によりまして本当に市民の市と議員は何をやっているんだというような声が非常に高かったことがあったということは、十分、我々も含めて自分の立場というものに対しても、責任というものに対してもやっぱり認識をこれからもしていかなきゃいけないと思うんです。その辺はやっぱり市当局もあわせてこれから先やっていき

たいというふうに思います。

次に、2点目の育児休業法の問題なんですが、大体国の指導どおりに行っていくというようなことでよろしいのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 恐縮でございますが、もう一回ちょっと問題のポイントをお願いいたします。

◎7番（鈴木順子君） 育児休業法 — 新しくこの3月5日ですけれども、保育所の問題が新しく通達されたわけですが、その問題につきまして、この通達の内容に沿いまして、国の指導どおりに行っていけるのかという質問でございます。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） ただいまの質問の育児休業に伴う保育所への年度の途中での円滑な受け入れ等について、平成4年3月5日付、厚生省児童家庭局長からの都道府県及び各市町村への通知、そのとおりにやっております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） その中に — 先ほども申し上げましたが、条件つきということでありましたけれども、この条件つきという内容について具体的にお教えいただけますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） この文書の中で「保育所への措置の取り扱いについて」ということであるわけでございますけれども、その中の1点目として、「保護者が育児休業をすることになった場合、休業開始前既に保育所へ入所していた児童について、市町村長は保護者の諸事情を確認するとともに、児童福祉の観点も含めて総合的に勘案した上で、措置の継続も含め、その取り扱いについて慎重かつ適正を期すること」というのがありまして、その中の具体的な一つの条件といいますか、保護者の諸事情とは何かということでございますが、保護者の諸事情というのは、1つ目に保護者の健康等の状況、2つ目に保護者の同居家族の健康等の状況、それから3つ目に育児休業後の

就業のための研修等の状況、それから4番目として、その他上記に類似の事情ということがございます。もう一点、この諸事情の中に児童福祉の観点ということで、1つ目に次年度に小学校への就学を控えているなど入所児童の環境の変化に留意する必要がある場合、2つ目に集団指導が必要とされる3歳以上児について、当該地域に児童館等の受け入れ先がない場合、3つ目にその他当該児童の発達上環境の変化が好ましくないと思われる場合、こういう場合に保護者の諸事情ということで、一つの条件みたいなものになっております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） かなり具体的にお聞きしました。このお話ですと、ほとんどの場合が子供さんを退所させなくてもいいような、そんな状況なのかなというふうに思いますが、育児休業をとりまして、例えば家で見れるからといって保育所を途中退所させた場合、また今度職場に復帰する場合、今度入所させなきゃいけないわけですけども、その際に受け入れる保育所というのは、退所前、退所時と同じ園に、保育所に入所させることができるのかどうかお伺いしたいんです。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 基本的には今度の育児休業法によりまして、以前ですと休業に入った子供さんは、今まで保育園で措置されていた児童は保育に欠けないということで、預かれないというか、私的契約のケースになったわけでございますけれども、今回の状況によりまして、それがこういうような諸事情を勘案しながら入れてもいいということになったわけでございます。

ただ、館山市のケースの場合には年齢別定員制度、そういうものをやっておりませんので、従来も受け入れてございました。でございますので、もとのところに帰るといようなことは可能かと思えます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 大体わかりました。

この問題はまだ——今から本格的にやっていかなきゃいけないことで、いろいろと育児休業をとった際の賃金補償の面とか、いろいろ問題点が多々ありますんで、これから先これは見ていきたいというふうに思いますが、ただこの制度、せっかくできた制度ですので、安心して育児休業をとれるようにお願いをしていきたいというふうに思います。

次に、3点目なんですけれども、JRの先ほどのお話、市長さん初めて聞いたというようなことでございますが、正直言いまして、率直にこのお話を聞いて、今安全確保が前提で、協力していきたいというようにお話をいただきましたが、この件につきましてJRに申し入れを行ってもらえるというふうに受けとめていいんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） JRの営業方針に協力していくということでございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 営業方針に協力していくということは、JRは削減が営業方針ですから、じゃあ私たちは本当に不安な中で電車に乗っていきななきゃいけないわけで、そのおかげでまた地元で働いている人たちが遠距離通勤を強いられていくわけなんですけれども。ちょっと視点を変えまして、例えば内房線——私たちが一番かかわっているのは内房線なんですけれども、よく昨年来もありましたが、雨とか台風で運休になってしまうんですが、本当に運休になって困ったというようなことはありませんか。また、聞きませんか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（佐藤輝雄君） 特にそういう問題につきましては聞いておりません。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 聞いていないということなんですけれども、おかしいですね。私なんかよく乗るんですけれども、本当によく困ったことに遭遇いたしまして、市長公室長からすればもう私は運が悪いのかなという認識を

持つんですけれども、これもし本当に聞いていないとすれば、もっとこれ情報収集した方がいいんじゃないでしょうか。本当に困っている人たち結構いますし、事実、観光に見えた方も、来るには来たけれども、帰れなくなって困った。館山駅にいっぱい人がたむろしている。これは報道もされているはずです。だから、聞いていないなんて言わないで、本当にこれをよく調査してほしいというふうに思います。

先ほども申しましたけれども、インダストリアルパーク計画の大体規模、雇用見込み聞きましたけれども、やっぱり今起きている雇用を守るということの方が先決じゃないかというふうに——そのインダストリアルパーク計画をやめろということではございません、私は。ということではないですが、こっちの今起きている雇用を守ることが先決ではないかなというふうに思うんですが、それはどうでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 先ほど来いろいろ議論が出ていますが、市といたしましては、ＪＲは輸送機関として乗客の安全を守るということはもう第一義であると私ども考えているわけです。ですから、そのＪＲのいろいろなそういった面での業務に協力していこうということでございまして、また人員の削減関係については、これ企業内部の問題で、行政から積極的にこうしてくれ、ああしてくれということはちょっと内政へ行政が立ち入るということになるんじゃないか、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 内政に立ち入るということのお話でしたが、ただ私は館山市民として、この房総に住む人間として、こういうことがあってはならないということをＪＲに対して申し入れを行うことぐらい私はできていいんじゃないかと思うんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 先ほど市長が御答弁しましたように、これは館山市だけの問題ではないわけでございまして、仮にそういう必要があれば、各関係市町村で協議した上でそういう措置をとりたい、このように考えております。

す。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 必要があればということで、期待をしていきたいんですが、昨年でしたか、ちょうど1年前になりますJRのダイヤ改正によりまして千葉駅への乗り入れができなくなりまして、非常に不便な思いをいたします。いまだにもってこの問題も解決されないまま——あの当時市民サイドでたしかJR千葉に対しても申し入れを行った経緯がありますね。私たちのやっぱりこの内房線というのは生活線でありますので、やっぱり安全が二の次にさせられているような実態を私たちは本当にただ黙って見ているというのは、ちょっとこれから先非常に怖いなというふうな感じを受けるんですが、このことによりまして遠距離通勤を強いられた多くの館山の労働者たちが、朝、年老いた母が早く起きて仕事に出さなきゃならないなどと言って、仕事をやめようかとさえ悩んでいる人たちもいるわけですから、列車の安全を守り、働く職場を確保するという、そういうためにもやっぱり市として真剣に考えていってほしいというふうに思います。ぜひ申し入れを行っていただきたいというふうをお願いをしていきたいと思います。

次に、4点目でございますが、婦人の登用ということで、そんなに——市長さん自らも婦人だから、女性だからということ——女性だから、男性だからという差別があるというふうには思いませんが、この問題はこれから先期待をして見ていきたいというふうに思います。

5点目なんですが、パート労働者が安心して働けるようにということで、労働省の冊子であるとかしおりであるとか結構出ているようなんですが、この冊子類は例えば市でどこに置いてありますでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの御質問ですが、市民課のわきにいろいろと資料等のボックスがございます。玄関、ちょうど出入口のところでございますが、中から見ると左側になります。こちらの状差しといいますか、ここへ置いておきまして、御自由にござんいただき、また持っていったいただく、こんなことでやっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） そうすると、例えば市の公共施設がいろいろなところにあるわけですが、そういうところには、ほかには置いてないということではよろしいんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） はい、現在のところ1カ所でございます。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 現在のところ1カ所だということで、先ほどもニュース等にありましたように、パート労働法 — この非課税対象額 100万は低過ぎるんじゃないかということで、枠をもう少し広げようというような動きがあるんですが、この件につきましてはなお一層の公共施設に置けるようなPR活動をお願いをしておきたいというふうに思います。

最後になりました。時間もございませんが、福祉計画についてなんですが、これからだということはよくわかっているんですが、私たちが本当に、先ほど来申し上げておりますように、本当にこれ本腰を入れてきめ細かくやっていかないと、本当に困るのは対象者なんですから、本当に今予算がないないということを何かにつけて言われますが、本当に予算がないのであれば、国に対して例えばこれこれこういうふうにしたいんだけど、それについてはこれだけの予算がない。予算をくれということまでも私はしていかないと、本当にとんでもないことになるんじゃないかなというふうな認識を持っているんですが、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 御承知のとおり、この市町村及び都道府県の保健福祉計画というのは平成2年の6月の29日に公布されたわけでございますけれども、あくまでもこれは地方自治法の2条の5の基本構想にのっとってつくれというようないわゆる法改正があったわけでございます。

そういう中で、3,300の全部の市町村がこの策定にこれから取り組んでいくわけでございます。国としても、また県としても、市町村としても、まだ

まだこれから予算関係、また事業の内容、サービスの量等の調査、そういうものもいろいろあるわけでございますので、いわゆる関係の団体といいますか、この安房郡市の市町村も合わせまして力を入れまして、また県、国等も力を合わせまして、この計画の――平成11年に向かってよりよい計画ができるように頑張っていきたいというふうに考えています。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 鈴木順子君。

◎7番（鈴木順子君） 本当にこれは期待をしてもいいのかどうか、私も昨年の6月からのずっと私自身が答弁の中で受けているものを考えますと非常に不安なんです、ただ失礼ながら、民生部長さんが対象の方ですからちょっと言いますれば、この民生部長さんが計画をつくって、年齢的にも失礼ながら、自分が利用なさるような時期に来るわけですから、やっぱり自分の身になってやっていただけるような本当にきめ細かな計画ができますようにぜひお願いをいたしたいと思います。

以上、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で7番議員鈴木順子君の質問を終わります。

次、18番議員日下君敏君。御登壇願います。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は本定例会の審議に先立ちまして、既に御通告してございます諸点について市長の御意見を承らんとするものでございます。去る3月の2日でしたか、初日に庄司市長から施政方針が出されましたものですから、今回はそれを踏まえてひとつ御質問をさせていただきたいと思うところであります。

なお、その前に一言申し上げますが、先般より市長を初め、住民団体及び議会、三者一体となりまして誘致活動をいたしました文化ホールが館山市にめでたく参るということになりました。我が議会といたしましても、特別委員会を設置いたして、正副議長を初め御努力いたしましたわけではありますが、庄司市長におかれましても大変に御苦労さまでございましたので、一言申し上げますところであります。

それでは、質問に入ります。私は次の4点をお聞きいたします。第1点が平成4年度予算の内容について少しくお聞きいたしたいということであります。第2点がリゾート法——総合保養地域整備法に基づく計画が、先ほど来神田議員も御議論なさいましたが、現在どのようになっているのかお尋ねいたしたいと思います。第3点がウエルネスリゾート計画でございますが、これは藤原の運動公園を中心に用地買収が本格化いたしております。しかしながら、私もその全貌がいかなるものであるかよく把握しておりません。議会におきましてもそうしっかりした御議論がなされておらないと思いますものですから、ウエルネスリゾートについてのその全容をお聞きいたしたいと存ずるところであります。第4点が館山白浜バイパスにつきまして、今後の状況をお尋ねいたします。以下、順次質問に入ります。

今年度予算につきましては、本議会で当然質疑の対象になりますし、また詳細につきましては、特別委員会が設置せられて、事細かく御議論がなされるところでありましょうから、ここでは細かい点は聞かないことにいたしますが、二、三基本的な問題についてお聞きいたしたいと存じます。

本年度予算が一般会計当初予算 144億 2,200万円、金額にいたしまして15億円増、対前年比、パーセントにして11.9%増という積極的な財政を組んであるというふうに思うところでございます。やはり庄司市長の意思がこの予算に出ているのかなというふうに存ずるところであります。前市長であります半澤市政におかれましては、全くの健全財政ということが売り物でございましたから、一種優良児ということでありましたが、庄司市長におかれましては、昨年度予算に引き続き今回も相当積極的に予算を組んでおるということで、率直にこの点は評価いたすところでございます。また、歳入における財産収入、歳出における諸支出金等々、私はバランスのとれた予算になっておるなというふうに存ずるところであります。そこで1点だけお聞きいたしたいと思うわけでございます。

積極財政と当然裏腹な問題でございまして、仕事をいたせば当然そこでお金がかかる、財政上負担がかかるということになるわけであります。ですから、これは仕方がないということになります。今般の歳入予算を見ました

場合、やはり一番目につくのが市債の増加でございます。本年度市債費が19億7,000万円でございます、対前年当初53%増、相当な増加であります。この歳入の中に占める市債費の割合に至りますと、約13.7%、相当な割合を占めます。これはもう先ほど申しましたように、積極財政を打つ以上仕方がないでありますけれども、これだけの市債を組んで、その内容はいかなるものであるか、さらにその返還はどのようにいたしてなし得るのかということをお聞きいたしたいと存じます。

財政の診断の目安といたしまして、よく公債費比率ということが問題にされております。そこで、この公債費比率20%を超えますと起債等々の制限を受けるというようなことでありますが、それでは館山市の今年度——今年度といえますか、平成4年度の公債費比率はいかほどのパーセントになっておるのか、あわせてお聞きいたしたいと思います。

次に、リゾート法についてお聞きいたします。この法律は昭和62年施行せられて以来もう5年を経過いたしましたわけでございます。施行されまして、地域活性化の目玉ということで、館山市も本当に期待をいたしました。そして、南房総に重点地域、当然——当然といえますか、館山市を含む南房総が重点地域に指定されました。館山市も3つのプロジェクトを押し出したことは周知の事実でございます。この太陽海岸平砂浦、これが熊谷組等々が中心で行う。2番目が南たてやまマリパーク、これが三井不動産及び日本国土開発で行う。そして、3番目がレインボータウン計画、これが大林組が行う。ということで3つのプロジェクトが発足いたしました、このレインボータウン計画は大林組が撤退いたしましたということは周知の事実でございます。

このリゾート法というものが民活法——俗に民活法と言われておりまして、簡単に言いますと、公共企業体と市町村は道路、公園等のインフラ整備を行いましょ。しかし、そこで民間業者が金を出して国民に滞在的な、高質なリゾートを与えなさい。与えてやりなさい。大変発足当時より虫のいい法律であるなというふうなことは私自身も感じておったところでございますが、この景気の低迷といえますか、景気がバブルで——今考えるとよかったんでありましょ、よかったときは大変よかったんでありますが、現在のよう

なバブルが崩壊いたした今となりますと、どうも一挙にこのリゾート熱が下がったというふうな気がいたします。また、これは私だけの考えかもしれませんが、館山市のこのリゾートに対する取り組み方がやや熱が減ってきたんじゃないかなというふうに私の目には見えるんですが、いずれにしても、先ほどの御答弁でも館山市は撤退しない、館山市はそのままやるんだというところでございますから、私はそれを受けて御質問をいたしておるわけですが、現在残っております太陽海岸平砂浦及び南たてやまマリパーク、この2つの計画が事前協議の段階であるということを先ほどの御質問でお聞きいたしました。いよいよこの事前協議が終われば、6月10日に本申請を行うというふうに聞いておるところでございますが、実際にこの6月10日に対して、この2計画は本申請に及び得るのか、その辺のことをお聞かせ願いたいと思います。

先ほど来、リゾートにつきましては全国的な見直しが行われている——神田議員におきましては、もう見直しが相当なところで進んでおるんだということの御議論がございました。私もそういうことだろうとは思いますが、議論の重複を避ける意味で私はもうそのことは聞きません。館山市はもう既に国及び県からはそういうものは一切来ない。ですから、今後とも今までどおりやるんだというふうに私も市の姿勢を先ほどの御答弁で受けとめて、そして私申し上げれば、結論的には何とかこのリゾート法に基づくプロジェクトをしなきゃならぬじゃないか、何とかしなさいということの結論的に申しますと立場から御質問をいたしておるものであります。よろしくお願い申し上げます。

第3点目がウエルネスリゾートパークでございます。このウエルネスリゾートパークは、藤原にあります運動公園を中心に、ここに相当大規模な、160ヘクタールに及ぶ地域を使って、そこに一大公園及び相当な複合施設といえますか、そういうものをつくるのだというふうに理解をさせていただいております。館山市におきましても、平成3年度より債務負担行為を設けまして、千葉県土地開発公社に先行取得させて、平成4年度では3億8,000万円の一般財源を充ててこれを買収する、こういうことになっております。及び

本年度予算でやはり7億幾らかの債務負担行為をかけております。これ相当な金額でこれから土地取得が行われる。にもかかわらず、私自身の不勉強であるということで申し上げれば、これは一体いかなる計画なのか、一体いつから始まるんだということがよく理解できません。はたまた一体運営主体はどこなんだ。

この予算を見ますと、館山市が用地取得に入る。そして、館山市が用地取得に入るということは、先行取得で県土地公社に買わせて、それを順次市が買い上げていく。一般財源ですよ、しかも。一般財源で買い上げていくということになっておりますが、それではこの館山市は県との間で一つ協定等々は結んであるのか。そして、ではこれが工事——工事というか、そういう施設が一たん実際の実施面に入った場合、一体組織はどうなっているんだ。一体どういうことで——この問題について今議論しておりませんから、私はお聞きいたしたいと存ずるのであります。

私も議会といたしましていただいた資料は、概要書という資料をいただきました。私の席の方にございますが、私はこれを改めて今般読んでみたんでございますが、どうもこの文章が大変うま過ぎて、私の程度ではよくわからぬ。さらに、横文字が多過ぎまして、横文字が今はやりといえはやりでいいんですけれども、大体このウエルネスリゾートパーク——まあまあこの辺はリゾートも聞いていますからわかりますが、いわくウエルネスコアなど、コアのターゲット、ナチュラルライフはまあまあいいとしても、クアハウスだ、クアだかコアだか横文字が羅列されまして、どうも一生懸命読んでいるつもりなんです、わからぬ。

わかりませんが、この概要書を見てみると、大変大規模な、雄大な計画になっておるわけでありまして。大体160ヘクタール、ちょっと私の考えの中で及びつきませんが、あそこの運動公園のこちらに何かカラオケの施設がありますが、あの辺からずっと藤原を覆って、後ろの茂名の辺までかかっている大変な構想であります。これが実現すれば大変なことだろうと思うんですけれども、あれを読みますと、これがリゾート法との絡みの中で、そしてプロジェクトの絡みの中でどうもこの構想はなされたというふうにあれを見ると

理解されるわけですが、こんな膨大なものが一体館山市でできるのかどうなのか疑問に思ったわけですね。あれができれば大変なものであります。

こんなことを申しちゃ申しわけございませんが、館山市が裕福な団体か裕福でない団体かということは、先ほども御議論がございましたが、裕福でない方の私は団体だろうと思うんですね。ですから、この計画書を見たときは、館山市があれを全部やるんだということになれば、私に言わせれば、中小企業のサラリーマンが自分のうちを持たないのに、他人から象をもらって、自分のうちを建てる前に象を入れる大きな建物をしいこらしいこらづくり始めたというような——言葉が悪いですけども、そういう感じを受けたんでございます。

これだけの立派な、あれだけの大変な施設をやる。しかしながら、そういうことについて我々がほとんど知識的に、我々が議会として受けていないということのために御質問いたすわけでございますので、ひとつ懇切丁寧なお答えがいただければと存じます。

第4点目が館山市のいわゆるバイパス問題でございます。いわゆる館山バイパスが先ほど完成いたしましたして、国道128号に接続いたしましたわけですが、これによって確かにあそこ便利になったんでございますが、当然当初より予想されましたことが発生しております。つまり、バイパスであそこにつけて、鴨川方面に行く左折はよろしいんでございますが、あそこで右折等々で信号が非常に見にくい。さらに、コミュニティセンターに入っていくのに、あそこら辺が不規則十字路のようになっておりますんで、これはぜひともあのままのバイパスを貫いて、館山白浜バイパスを早急に解決いたしてもらわなきゃならぬと思うわけでありまして、そしてもう一つ、そのままバイパスの先といいますか、延長といいますか、都市計画道路青柳大賀線についてもその促進方を急いでいただきたいと思いますと思いますが、その現状はどうなっておりますか、お聞きいたしたいと存ずるところでございます。

質問は終わりますが、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの日下議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、平成4年度予算の内容についての御質問でございますが、市債が大幅に増加いたしましたのは、南房総広域水道企業団用水供給事業、館山市水道第3次拡張事業及び三芳水道企業団第2次拡張事業に対する一般会計からの出資金が大幅に増加し、この財源として14億7,730万円の出資債を見込んでおりますが、これが前年度当初予算に比べ7億4,150万円の増となったためでございます。このほか、道路整備事業、港湾整備事業、消防施設整備事業、館山小学校校舎等改修事業及び第三中学校屋内運動場改修事業の市債といたしまして4億9,290万円を見込んでおります。

市債につきましては将来に財政負担を残すという側面がございますが、一方現在国におきまして、地方財政に対する財源措置として、一定事業に係る市債について、償還時にその額の100%から30%を交付税措置するという財源措置がとられておりますので、財源として市債を充てるについてはこれらのものや低利率のものを重点的に充てておりまして、将来負担の軽減に配慮しております。平成4年度予算で特に増加いたしました上水道出資債につきましても元利償還金に対し50%の交付税措置がございます。

いずれにいたしましても、今後厳しい財政運営の続いていくことが予想されますので、公債費比率等の動向に留意しながら健全財政の維持に努めてまいりたいと考えております。

次に、平成2年度の公債費比率につきましては13.9%でありまして、さらに純然たる市債による償還額の標準財政規模に対する割合を示した起債許可制限比率は12.6%でございます。

次に、大きな第2、総合保養地域整備法に基づきます大規模民間リゾート開発の進捗状況に関する御質問でございますが、現在太陽海岸平砂浦計画及び南たてやまマリンパーク計画の2つのプロジェクトが進展しておりまして、それぞれ開発のため、開発事業者が県と事前協議中でございます。また、平成4年6月にはそれぞれの開発事業者から県に本申請を提出しなければなりません。開発申請の要件のうちの用地取得につきましては、現在のところ

両計画ともまだその要件を満たしておりません。今後館山市といたしましては、計画の実現に向けまして積極的な支援を行ってまいり所存でございます。

次に、大きな第3、ウェルネスリゾートパーク計画の概要に関する御質問でございますが、本計画は海洋性リゾートタウン基本構想の基本理念でございます「ウェルネス・ファミリーリゾート館山」を形成するための中核拠点の整備として位置づけ、平成元年度に建設省の補助金を受けて策定したものでございます。計画の概要といたしましては、既に存在します県立館山運動公園を含めた約160ヘクタールの区域の中にスポーツレクリエーション施設、総合的な健康、文化、交流施設及び宿泊施設などの導入を図っていく予定でございます。現在この実現に向けて用地の先行取得を行っているところでございます。今後は用地の取得と並行しながら、国、県等との協議を進め、さらには民間の参画などについて検討してまいり所存でございます。

次に、大きな第4、館山白浜線バイパスの今後の状況についての御質問でございますが、館山白浜線バイパスは国道128号コミュニティセンター入り口付近を起点として、主要地方道館山白浜線上真倉地先までの間、延長2.3キロメートル、幅員25メートルとして計画されております。平成2年度に地元説明会を実施いたしまして、平成3年度から県事業として着手し、用地の取得が進められておりまして、地元関係者の御協力を得まして、約25%の取得が完了したところでございます。

なお、完成時期につきましては、東関東自動車道館山線の完成に合わせまして、平成7年度までに供用開始できるよう県に要望しているところでございます。

また、都市計画道路青柳大賀線についてでございますが、館山バイパス、館山白浜線バイパスと一体となって機能し、交通渋滞の緩和と良好な道路ネットワークを形成すべく、当初区間として、青柳地先を起点として、県道館山長尾線までの延長380メートルを計画し、平成3年度に地元説明会を終え、平成4年度から事業化を予定しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番(日下君敏君) おおむね了承するところでありますけれども、一、二いまして詳しくお聞きいたしたいと存じますので、再質問をさせていただきます。

その第1点の財政といいますか、予算の件ですけれども、例えば御答弁でありました公債費比率ですか、これが13.9ですか、起債許可制限比率12.6ということで、まあまあ危険水域には達していないよ、こういうことでございますが、これから下水道事業等々も本格化いたしますでしょうから、当然この公債費も減ることは余りなかろうかなと思うんですけれども、とりあえずこれから3年程度、もしそちらの御資料がございましたら、いわゆる公債費比率でも起債許可制限比率でもどのように推移するか、これから3年程度乃至5年程度わかればお聞かせ願いたいと思います。

◎議長(福原 勤君) 総務部長。

◎総務部長(二通英雄君) 今後大規模プロジェクトがございまして、事業を継続していくわけですけれども、その中で見込まれておるのが平成3年度で――起債許可制限比率で申し上げますと、単年度でございすけれども、11.4%、平成4年度では11.8%ぐらい、それから平成5年度は12.5%というふうなふうに見込んでございます。

以上であります。

◎議長(福原 勤君) 日下君敏君。

◎18番(日下君敏君) 思ったより低いような感じで、これは正確な数字であろうと思いますが、ひとつそういうことでありますれば、この制限の中で目いっぱいひとつお仕事をさせていただきたいと思うところであります。

第2点目のリゾートですけれども、このリゾート法は先ほど申しましたように大変な――一口で申し上げれば虫のいい法律でありまして、民間業者の金余り現象を期待して、そのまま国民のリゾートをなし遂げよう、こういうことだったんですけれども、私も当初よりどうもこれ虫がよ過ぎるなということで、リゾートの行方を見ていたんですがね、いろいろ私の目につく範囲で切り抜き等々をしましてね、これはやっぱりまずいと思ったのは、この――私もこの間ちょっと言いましたが、去年の2月、91年2月ですね、

この週刊誌に共和 — あそこ共和ってよくわからなかったんですが、もう阿部代議士で有名な共和がまず木古内町でパンクしましたよ、あのリゾート法が失敗しましたということだったんですね。今見ますとこれもう大変で、これには全然阿部さんの「あ」の字も出ていませんが、この第1号がこの共和の木古内町での失敗。これに至っては議員の半数がやめちゃったそうですね、えらいこっちゃというんで。

そういうところからスタートしたんで、私もリゾートはいかがなものかなと思って市御当局にはお聞きいたしたんですが、市の方は大丈夫だ、やれますよ、十分いけます、こういう答弁であったわけで、きょうもまだそういうことで大丈夫だと言うから、私はもう大丈夫だというふうに思ってお聞きいたしていきますから……。

その後どうなったかなといういろいろ見ていましたら、新聞によりますと結構にぎやかでして、宮崎、これがもう第1号指定になりまして、届け出てあります我が同志会もこの宮崎に行政視察に行かさせていただきまして、つぶさに聞いてまいりました。この宮崎は、やはり1号をとっただけに、もう既にゴルフ場その他がオープンしてしまして、施設的には相当早く動いているんですが、しかしながらこの宮崎でさえ — ツ葉リゾートというんですかね、ここでも住民が — ここは国有地を開発して行いまして、地上げというものが館山市と違ってありません、民有地がありませんから。国有地を伐採して行った。そうすると、結局は住民から苦情が出ている。苦情というよりはもう訴訟になっているんですね。

さらに、長野県の浅間山ろくの町では、環境アセスに入る前に、第三セクターを組んでいた住友不動産 — これはもう一流のばりばりの企業でございますが、この第三セクターを組んだ住友不動産そのものが環境アセスを前に撤退していった。これは大変なことですね、これはなぜ撤退していったかという、もう業績が、本業の不動産業がうまくいかないから撤退します。これが91年の12月5日、朝日の夕刊であります、こうなると、これ本当にリゾート大丈夫かなと思っているんですが、本当に大丈夫だということを神田さんで聞きましたから、もう一度大丈夫なんだというところをお聞かせく

ださい。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの状況、市長からも御答弁申し上げましたように進展しているわけですが、条件の中の本申請、6月の10日でございますが、これまでに本申請いたします用地の部分につきましてまだ条件を満たしておらない、こんなような状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 満たしていないけど大丈夫なんだ、国、県が言ってきていないから——そういうことだと思ひましてね、質問をこれからいたします。もうこれ重複しますから、神田さんと。

やはりこれ、ここまでやってきた以上、このままこれは見ておくというわけにいかぬだろうと私は思うんです。なぜ館山市の意気がどうも少なくなってきたかなといひますのは、ここにそちらで編さんしました実施計画がございます。館山市根幹事業実施計画、これを見てみますと、23ページですね、民間計画の推進、南たてやまマリパーク、事業内容、4年度何にもないんです。太陽海岸平砂浦、事業内容、これも何にも書いていない。ということで、これはことしは何にもやらないのかということで、じゃあ昨年度の、3年のものを見てみますと——同じ実施計画ですよ、昨年度館山市が策定したものの。これを見てみますと、南たてやまマリパークは4年度は第三セクター出資をします、こう書いてある。太陽海岸、第三セクター出資をします。これどこへ行っちゃったんですか、お聞きいたします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） お答えいたします。

当初の計画では海の部分が入っての計画を進行しておりました。ところが、昨年いろいろと県の方針等で、公有水面の使用に関しまして大幅に変わってまいりまして、最初の計画自体がちょっと今ストップされています。これは現在……

（「簡単で結構です」と呼ぶ者あり）

◎経済部長（脇田元始君） そんなことで、今回の計画の中にはそれが出せなかった、こういうふうな状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 時間もございませんので、簡単な答弁で結構でございますので、私がここはよく説明してくださいよというところはよく説明してください。

第三セクターというのは海岸の話なんだ、こういうことなわけですね、今の御答弁では。じゃ、海岸の方はそういうことでございますからお聞きしません。わかりました。

陸の方ですけれども、この陸、ここまできた以上何かやらにゃあかんでしょう。6月10日というのが俗に言う本申請ですね。これについては、先ほど来の答弁で、要するに用地がコンプリートに、完全にできないと申請もできないよということなんでしょうが、それは多少の時間がありますから、6月10日の本申請に間に合わせて支援する、そういうことですね。イエスカノーかだけで結構です。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 今までのいろんな御議論の中で、ゴルフ場は単体じゃだめなんだというような話がありましたが、私はゴルフ場を1つぐらいつくるべきだと思うんですよ。ここまで5年もかけて、相当な金かけていますよ、これ。時間も。なぜ私はゴルフ場をつくるべきかといいますとね、ゴルフ場ぐらい——何年もかけて複合じゃないとだめなんだといっても、これもう日本全国全部金太郎あめで、ゴルフ場、マリーナ及びホテルか何か、そんなところなんです。スポーツ施設とか全部同じなんです、これ。そこで、ゴルフ場を1つぐらいつくるべきなんだということは、企業だけにやはり——その企業も一生懸命になって、社会的な責任を持ってやっているんだ、もうけだけじゃありませんよということがこの法律に基づくリゾートの開発

だと思うんですね。

そこで、このゴルフ場——私がなぜゴルフ場をつくるべきかといいますとね、つまりゴルフ場というのは大変に——今問題になっている茨城カントリーを見てもわかるように、ペーパー商法でこれはもうできるわけですね。茨城カントリーに至っては、200万で5万人の会員を集めて、1,200億とかとんでもない金が集まるんです、ゴルフ場の会員権というのは。ですから、ゴルフ場をつくれれば簡単につくれる。しかし、私はリゾート法の信念というのは国民に、皆さんにどんどん使ってくださいよということだろうと思うんですね。

そこで、突飛な質問しますがね、じゃゴルフ場の今計画しているのは会員制ですか、それともパブリック制ですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 会員制でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 私はその辺がだからおかしいと思うし、市もその辺のことをかっちりと言うべきだと思うんですよ。

会員制というのは、今言ったようにとんでもないこれ——1株当たり500万とか1,000万とかの会員をとって、会員を中心に楽しむんですよ。これがリゾート法の趣旨に合っていますか。そんなもの合っていないですよ。ですから、パブリックということで、会員なしの——会員なしに皆さんにオープンにして、そして国民がゴルフを楽しむ、あるいはスポーツを楽しむ。とりあえず一等最初ゴルフ場の1つぐらいつくりなさいよということはそういう意味でございますが、これはじゃあパブリックをつくるとなると、これまた企業の方はもっと二の足を踏み出すんじゃないかなと思いますが、リゾート法の趣旨からいったらパブリックにするのが当然じゃないですか。宮崎で既にオープンしているゴルフ場はパブリックですよ。御存じですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 複合開発ということで、ゴルフ場だけじゃないわけですが、その他の施設も含んで複合開発というふうなことで進んでおり

ます。

ゴルフ場のそのパブリック、会員制の問題については、企業側の採算性の面からそういうことで進んでおる状況でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） ですから、そうするとやはり見直さにかいかぬなということへいくんじゃないかなと思うんですね。リゾートというのは国民に低廉な施設を提供してより楽しんでいただくだから、そういうことから申すれば、これはパブリックが本来の趣旨ですよ。しかしながら、会員でいくんだということになると、これでは会員が楽しむということで、リゾートの趣旨と合わない。しかし、合わないけれども、なぜ会員にするかというのと、そういう民間業者にやってもらわにかいかぬのだ、こういうことだからだと思いますが、時間がございませんので余りこの辺は御質問いたしません、私はここまできた以上、5年もかけてですよ、そして企業も3社のうちの2社だけがとりあえず残って最後の詰めをやっているわけでありますから、これは何としてでも——何としてと言うとちょっと語弊ございますが、ただいま県及び国からは一切の指導が来ていない。ですから従前どおり行うという先ほどの御答弁でございますから、ひとつ市もこれは——ここへきて冷たくなって、今まで知らぬのだ。今までにリゾート研究会つくりましたが、そんなこと関係ありませんということで、これから、今からお聞きするウエルネスリゾートの方へ全部行くんだというんじゃ、これでは企業の方も館山市も何を言っているんだということになりますから、本腰を入れてやはりゴルフ場の1つぐらいつくるべきだというふうに存ずるわけであります。大変時間の関係で難になりましたが、折々の機会でまた私の考えを申し述べさせていただきますと思うわけでございます。

このウエルネスリゾートパークですけれども、この概要書、これだけですよ、我々がいただいているのは。これをまた改めて読まさせてもらった。これ難しいですよ、この文章は。読んでみましょうか。「本調査は、昭和63年度までの関連計画（観光振興基本計画、総合計画、海洋性リゾートタウン基本構想、リゾート研究会検討部会）等の中で位置づけられたウエルネスフ

ファミリーリゾートの核（ウエルネスコア）としてのリゾートパークの具体的な計画内容を検討し、事業の内容を明らかにすることを目的とするものであり、今後総合保養地域整備法に基づく地域指定やその他の整備推進の一助となれば幸いである」、こう言われてもこれさっぱりわからぬですね。わかりましたか。これがわかれば大したものだ。法律用語より難しい、これ。何言っているのかなというふうに考えて読んだら、要するにここに核をつくらと言って、それでいわゆる南たてやまマリンパークだとか太陽海岸平砂浦のそういう個別リゾートを補完するんだ、そしてそのリゾートの核になるんだ、こういうことですね。時間がございませんから、そうかそうでないか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） そこで、いろいろこれ読ませてもらいましたが、すごいらい計画なんですよ。たしかここに出ています。

それで、160ヘクタール、これを使って、このアミューズメントセンターから——アミューズメントセンターというのは、この八犬伝の何かゲームがあるし、ホテルはある。これ大変な計画ですよ。大変な計画で、私はこれはこれで立派だと思うんですよ。言葉じりとらえて申しわけないんですが、核と言ったから、核なんていうのは本当に小さなものかなといったら、核どころの騒ぎじゃない。大変なものです、これができ上がったらですよ。

そこで、これは今——もう今年度も土地開発公社に買わせていくわけですが、けれども、またこの実施計画も見せてもらいました。この昨年度の実施計画によりますと、このウエルネスリゾートは平成4年度、今年度第三セクター出資をいたします、用地購入のほかに第三セクターを導入いたします、こう言っている。この平成4年度、今年度つくったものは用地取得だけになっている。これはどういうことですか、お聞きします。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 前の段階におきまして、第三セクターというのをその時点でつくれるかな、そういうふうな計画で進んだわけですが、現時

点ではまだ用地買収が4年度続きます。5年度以降も多少は残るんじゃないかならうかと思いますが、その時点でまだ第三セクター云々につきましては時期尚早というふうなことで聞いてございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） そうすると、これは相当計画的なことを——計画的というのは、プランニングの段階であるものをやるんだというふうに——実施計画ですからね、これ——書いたな、こういうふうに思うわけですね。そういう計画ならば、それは余り載せるべきじゃないですよ。1年間だけでこれ違っちゃっているんですよ。

しかも、第三セクターというのは私一言も聞いていません。一体この主体はどこがやるんですか。私第三セクターというのは、これで見ましたが、見たことありませんよ、ほかには。どこがこれを運営するんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 市が中心ということで進みますが、先ほど来お話し出ています運動公園、これ25ヘクタール、その160ヘクタールの計画の中で25になるわけですが、こういった中で国、県も入っていただき、さらにはやはり第三セクターも設置して、その中での一部という事業、こういうのを含んでいく考えであります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） つまり、どうもこれは計画があって、もう少し煮詰めるべきものを煮詰めないままスタートしたんじゃないかなと私は思うんですよ。この計画自体は大変私は立派なものだし、よかろうと思うんですね、リゾートの各プロジェクトを補完するものである、ということですから。

しかしながら、どうもニュアンスがおかしい。これを読むと館山市民もここへ出てくるんだ、動くんだということですね、触れ合いもある。どういう触れ合いをするのかよくわからぬということが1つと、例えばどんな人間が来るかわからんですね。じゃ、リゾート計画が実施されたとして、そのリゾ

ートへ行く人間はそこでもういいんだ、例えば南たてやまマリパークに来た人間はそれでいいんだ、それじゃあ — 館山市にも — 弱小と言うとおかしいけれども、小さな旅館もある。そういうところに来た客がそこへ行くというような意味にもとれるし、どうもこの辺の — いまひとつすっきりしないですね、この計画が。この計画自体は大変立派なものですよ。できればこれは結構でございます。そういうことがある。

具体的にお聞きますが、先ほど言ったように 160ヘクタールを使うということですね。そのうちの既存25ヘクタールは運動公園ですよ。残り 135ヘクタールありますね。これはすべて買い上げるわけですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの考えは、緑地 — いわゆる山林といえますか、一部それは、緑地として残す部分につきましては、財政状況からして、現段階では購入しないで借りていくという考え方です。以外は購入で進む、こういう考えでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） その緑地は一体どの程度で、買い上げるのはどの程度なんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 台帳面積で申し上げますと、全体の面積が — これは購入と借用全部含んで、運動公園は外してございますが、台帳面積で 66万5,150.24平方メートルでございます。66ヘクタールということでございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） それで、じゃ借りるという部分があるわけですね。全部を購入しないで借りるという部分。多分緑地を借りるということになっているんだろうと思うんですね。この予算説明書を見させてもらいますと、ここに緑地を買いいますよ — これ何ページだったかな。この概要説明の方ですね。議案の概要説明、この15ページに緑地はこうですよというこれですよね。この緑地は借ります。何で借りるんですか、これ。これこんな — 一部

じゃないでしょう、この斜線部分が全部緑地ですからね。これを借りるというんでしょう。だから、この中は買いますよ。これだけ借りられるんですか。なぜ借りるんですか、さらに。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 用地の購入にかなりの費用がかかるというふうな——事業全体のあれからいって、大変財政上困難な面もある。その部分に関しまして借地ということで、地元の方に事前に御説明申し上げて、かなりの了解はいただいております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） これね、ではどの程度の土地代を予定しているんですか。買収価格ですよ。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 山林は1坪1万円ということで進んでいます。ただ、市道等の近所につきましては1万1,000円、こういう形で進んでおります。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） 大体私が聞いた説明では14億か何かですか。最終的にはもうちょっとかかるのかな、金利を入れると。そういうような数字ですから、大体19億とか20億ぐらいが全買収費及び——つまり、元金合わせると大体20億程度、こんなところですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 用地費14億、利息入れて19億という予定でおります。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） この1点は、私はこの借り上げるという問題、これが一番トラブルが起きる問題だと思うんですよ。これ何で借り上げるのか。ただいま財政状況の理由だと言いますが、19億ですね、この全体的な買い上げの予定額。しかしながら、この計画は、この概要書を見ると、とりあえず

452億ですよ。これは用地費入っていないと思う。452億のものをやるのに、あともう19億ばかり払えば——払えばというのをおかしいけれども、いいわけでしょう。それを緑地を借りるということになりますと——なぜかといいますと、借りるという行為は、当然借地料がこれ3年に1遍なのか。最低3年に1遍やらにゃあかんでしょうね、固定資産税の関係もありますから。その都度その都度借地料について更新せにゃあかんというような問題も起きてくる。そうすると、その間に、例えばこれがこのとおりできて、周りの方が開発されてくる。これ見ると、独立してここに残っているんだということですね、これは。そうなると、周りが事業上がりますと、これ借地なんてとんでもない話で、もめますよ、これ。そういう予想はしておりませんか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 借地と申しあげました部分は、事業の着手といひましようか、その時点からというふうな考え方です。できればこれは根本的には購入できれば購入したい、こういう気持ちはございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 日下君敏君。

◎18番（日下君敏君） これはやはり購入すべきですよ。どうせ——どうせって失礼ですが、この計画を実施していくならば、ここで借地を残すなんていうのは——開発しないから借地するんじゃこれは逆に失礼じゃないですか。そのまま森林で残すんだから、これは借地なんだ。開発するところは買うというのは、これは失礼で、さらに事業をやる以上は、あるいはその地域のものをもし買うならば、それはすべて買い上げていって、そしてそれから施設をつくるべきだというのが本筋だと思うんですね。ですから、その方向だということで、これも非常に何というか、まだ難しい段階だろうと思うんですけども、そういうことで、私はこれを買上げる方針でいくべきだと思うわけですね。

じゃあ一体これは運営主体はどこになるんですか。今の段階でまだ決まっていんじゃないんですか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君）　ただいまは市を中心にして、県、国、それから第三セクター、さらには優良企業、民間がございましたらそちらの方にも参画していただく、こういうふうな現在の考え方でおります。

以上でございます。

◎議長（福原　勲君）　日下君敏君。

◎18番（日下君敏君）　これイフの問題を取り扱っていますんで、しかしこのアミューズメントセンターって、これ見ると、これやるかどうかは別にしまして、里見八犬伝で何だこんだと、こうなっていますが、こんなのでペイするから民間来いって来ますかね、これ業者が。そんなことを申しちゃ何でございますが、計画だから言わせてもらおうと、ここにホテルもある。しかしながら、リゾートのプロジェクトを見てもわかるように、採算がとれなきゃ民間会社というのは来ませんよ、これ。その辺のことも読んでありますか、これ。

◎議長（福原　勲君）　経済部長。

◎経済部長（脇田元始君）　それら含めてこれからさらに実施計画等詳細に内容を検討してまいるわけですが、現状では例えばどういうものがどうだ、そこまでの詳細な計画は持っておりません。

◎議長（福原　勲君）　日下君敏君。

◎18番（日下君敏君）　ですから、これは私先ほど最初に申し上げたように、計画をぎりぎりまで練らなくて、そのリゾート法に合わせてリゾートの民間がそのように動き出したんで、リゾート研究会もできたんで、これはもうとにかくスタートせにゃあかんということで、煮詰めずに出た問題だと思うんですね。だから、一体どこがやるんだ、じゃあどこでどうするんだというこれ詳細計画はなかろうと思うんですよ。せいぜい建設省からの補助金がついて、唯一の何というか、神頼みというか、免罪符といいますか、ですからこれについてはいまい少し――スタートしたものは仕方がないと言われればない。

これは一面大変立派な積極的な施策ですよ、頼みもしないのに用地買収入っているんですから。これからこれができるかどうかわからぬのに用地買

収に入って、しかも今年度も7億の債務負担行為やるわけですからね。ですから一面確かに積極行政であります、私は行政というものはさほど積極的でなくてもよろしいのではないか。計画なるものはやはりかっちりと煮詰めて、ある程度の裏づけをとった上でスタートすべきだと私は思っていますが、また機会をとらえて御質問をさせていただきたいと思ひますので、これで終わります。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 先ほどの起債許可制限比率の件で、最初の——大規模と言いましたので、標準財政規模が5%推移ということで訂正願ひたいと思ひます、失礼しました。

◎議長（福原 勤君） 以上で18番議員日下君敏君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時42分 休憩

午後3時05分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、20番議員生稲 陞君。御登壇願ひます。

（20番議員生稲 陞君登壇）

◎20番（生稲 陞君） 私は既に通告申し上げてあります5点について御質問いたします。

1、乳価問題について。大詰めを迎えた米、乳製品、でん粉を含む農産物の農業保護削減をめぐるウルグアイラウンド農業交渉も各国間の調整がつかず、年越しとなりました。非関税品目の関税化が国際的に主流となりつつある情勢は、我が国の農業経営にとって刻々と厳しさを増して、不安は深刻となり、今こそ、我が国農業の存亡をかけ、新たな活性化を求め、官民一体となって確固たる信念のもとにその体質改善に努めなければならないときであります。現状と将来の方向を十分認識の上、創意工夫を重ね、畜産、酪農家が一丸となり、一層発展させる責務があると思ひます。市としてこのような施策をどのようにお考えになっておりますか、お伺ひいたします。

なお、館山市の現況は、農家戸数、平成元年 179戸、平成2年 168戸、平

成3年 150戸、生乳粗生産額、平成元年11億 5,800万、平成2年11億 5,100万円、年々減少の傾向にあります。このことは、とりもなおさず乳価が安いということでもあります。10年前に比べてキロ当たり14円の値下げ、25頭飼育農家では250万の収入減となります。酪農本来の目的は、言うまでもなく生乳生産である。その生乳の取引基準を勝手に改正し、酪農家にしわ寄せしております。

私はここであえて申し上げたいのは、この房州館山は日本酪農の発祥の地として、1728年、徳川吉宗によりインドより白牛を導入、牛乳から白牛酪を生産したことが始まりで今日の酪農となっております。この地だからこそ改革を願い、努力するものであります。

生産される牛乳は衛生的で高品質でなければならないということは十分認識しておりますが、価格で差をつけることは違法と思います。この取引は規則で規制されております。農林規格、厚生省令、乳及び乳製品の規格。農林規格では1等乳、脂肪2.8%、酸度0.18%、厚生省令では市乳で乳脂肪3.0%、酸度0.18%、細菌数5万以下、無脂乳固形分が8.0%以上、このような決めがあるのに、脂肪3.5%以上、無脂乳固形分8.3%以上、細菌30万以下、乳質改善と申して、これ以下はペナルティーを導入。そのため酪農家は種々努力をいたしておるところでございますが、このやり方は乳価の2段切り下げと同様です。10年前14円の値下げをし、かつまた勝手に決めた価格では酪農家は納得できません。このようなことをするのであれば、行政の場で法律を改正すべきだと思います。県、国に働きかけて改善をするようお願いいたします。いかにかお伺いいたします。

2、豊房育成牧場について。房州酪農の発展のため、乳牛の資質の改良と体力の向上を図るべく、犢牛の育成を目的とした牧場と理解しておりますが、昨今では酪農の不景気により預託者が減少して、入牧に御苦労なさることはわかります。入牧する側といたしましては、素牛を5万円で収容して18万円、計23万円、現在の初妊牛価格が25万円前後で購入できます。過去のように30万、40万で取引されたときと差があります。希望者が不足するのは無理もないと思います。また、話によりますと、受精しても不受胎が多いと聞いてお

ります。先般見学に行きましたが、あの始末ではと思う点が多々見受けられます。

管理委託料を 3,000 万支出しているようですが、この中より機具等の購入もされていることと思いますが、ショベルローダーは貸与しているのか。館山市と記入してあるのに安房畜協で使用しています。この点区別をつけることを望みます。

安房畜協の指導牧場の経営を見ると、あのやり方では任せることはできませんので、委託先を変えることはできませんか、お伺いいたします。

3、総合病院建設について。館山市の基本計画の中で、「自分の健康は自分でつくり、自分で守る」という基本理念のもとに、健康で活力ある長寿社会の実現を目指して平成元年度に長寿健康都市宣言をし、健康づくりに対する市民意識の高揚を図り、一層の受診環境の整備を行い、生きがいのある生活を送ることが市民皆様の願いであります。

人間一生健康で通すことができればこの上もない幸せです。ところが、病はいつでも時を待たず、また交通戦争の中、やはりいつでも、休日、夜間等を問わず、関係なく発病、けががあります。そのとき、だれもが頼るのが病院であります。安房医師会病院を中心に、各市町村に働きかけ、一日も早く安房医師会病院の充実拡大を図るようお願いいたしますとともに、いかがかお伺いいたします。

参考までに、館山市民が亀田総合病院に入院、外来としてかかっている方が63年から平成元年まで 8,615人だったのが平成3年1月から11月まで1万4,840人とふえました。診療費のほかに、これだけの方々の交通費等膨大なものがあると思います。

4、河川の浄化について。この問題につきましては過去何回か取り上げられましたが、野放し状態であります。このことにつきましては、水質汚濁防止法に基づき、工場及び事業所から公共用水域に排水される水の排水及び地下に浸透する水の浸透を規制するとともに、生活排水対策の実施を推進する等により公共用水域及び地下水の水質汚濁の防止を図り、もって国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全し、並びに工場及び事業所からの汚水

及び廃液に関して、人の健康にかかわる被害が生じた場合における事業者の損害賠償の責任について定めることにより、被害者の保護を図ることを目的とするものである。このことに関しまして、第14条で公共団体の責務があります。これに必要な施設の整備、生活排水対策の啓発に携わる指導員の育成に努めなければならないとありますので、徹底した指導をしてくださるようお願いいたします。同時にお伺いいたします。

それに、し尿を飼料作物の肥料として散布するのはわかりますが、目的なくして投棄する者がいることです。田んぼへ流すと、暗渠排水が施されていますから、栓が外してあると、物の10分たたずに側溝へ流れ、大川へ流出し、これでは館山湾の海水も汚染するのは無理もないと思います。

5、農業の振興対策について。我が国の農業を取り巻く情勢は厳しいものがあります。農産物の自由化、畜産農家の廃業、ミカン農家の廃園が相次いでいるありさま。去るも地獄、残るも地獄そのものであります。何とか一丸となり、努力してこのトンネルを通り抜けなければならないと思います。それには生産性の向上、流通——このことについては、東京湾横断道及び東関東自動車道を大いに活用して、房州の温暖な気候条件を生かし、特産物の産地化を目指して邁進することを望みます。市ではどのようなお考えでいますか、お伺いいたします。まず、試みといたしまして、私はニラ及びモロヘイヤの栽培を提案いたしますので、関係機関の指導を受け、導入されることを望みます。

以上、質問を終わりますが、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（福原 勲君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの生稲 陸議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、乳価について。乳質はよくなっているが、価格は下がっており、どうにかならないかとの御質問でございますが、乳価はメーカーと生産者によって定められているもので、行政の介入は難しいものと考えておりま

す。しかしながら、酪農家も輸入自由化問題等で厳しい状況でございますので、県を通じて千葉県酪農農業協同組合連合会に働きかけてまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の豊房育成牧場についての委託先の変更ができないかとの御質問でございますが、御案内のとおり昭和58年10月から安房郡畜産農業協同組合に管理運営を委託しているところでございます。現在安房郡畜産農業協同組合にかわる委託先は見当たりませんので、今後お願いしてまいりたいと考えております。

次に、大きな第3の総合病院建設についての御質問でございますが、市民の皆様が近くで安心して必要な医療が受けられる地域医療体制の整備を望んでおられることは十分認識しております。しかしながら、御承知のとおり医療法に基づく千葉県保健医療計画により、増床を伴う新築及び改築は認められておりません。現在医師会病院の改築、充実の計画がございますので、機能の拡大充実を安房医師会をお願いしているところでございます。これからその構想、計画が具体化するに伴いまして、関係団体と連携を図りながら、できる限り協力してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4の第1点目、家畜のふん尿処理の指導について、第2点目、暗渠排水の整備された田んぼからし尿が流出しており、その防止対策についての御質問について一括して御答弁申し上げます。

市内の酪農家のふん尿処理は農地還元がほとんどでございます。しかし、一部酪農家によって流出されたことがございました。家畜のふん尿処理の指導につきましては、館山保健所、安房支庁、畜産奨励委員、産乳組合長の御協力を得まして、各河川流域ごとの畜産農家を巡回し、適正な指導をしているところでございます。今後も引き続き指導を強化してまいりたいと考えております。

なお、酪農家自身もふん尿処理施設の建設を要望しておりまして、市といたしましても早急に対応してまいりたいと考えております。

次に、大きな第5の農業振興対策についての御質問でございますが、ニラ等を館山市の特産物として栽培したらどうかとのことでございますが、これ

からの研究課題でございます。特産物として出荷するには、産地の集団化、共選共販体制、安定した出荷を行わないと市場との対応ができず、安定した収入を得ることができません。今後館山市企画研究会の会員を中心に検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） おおむね理解するところでございますけれども、二、三質問させていただきます。

乳価については、行政の場ではちょっとできないようなお話でございますけれども、乳価については、これ行政で決めた法律でもってやっておることなんだから、行政でもって圧力をかけていって直してもらわなきゃいけないか、このように思っておりますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 乳価につきましては、メーカーと、それから生産者によって決めるというふうに伺っておりまして、行政は介入していないというふうに聞いております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） 先ほども私述べましたように、農林規格という規格があるんです。この規格を勝手にじゃあメーカーなりどこかが操作しちゃって、例えば脂肪 3.0%や — 農林規格じゃ 2.8%以上となっているものを — 厚生省令では 3.0%とある中で、それを 3.5%以上なければペナルティーを科せるということはちょっとおかしいと思うんです。ですから、やはり法律というものは行政で決めたことだと私は思っておりますけれども、それを何とか — 市長さんは先ほど県、国の方へ圧力をかけてやるとおっしゃいましたけれども、そのように早急にやっていただきたいと思っております。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） ただいまの乳質の関係でございますが、ちょっとその辺が詳細に — 不勉強で申しわけございませんが、調査いたしまして

対応したい、こんなふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） はい、わかりました。

そうしたら、次に豊房育成牧場の問題でございますけれども、安房畜協さんにまた引き続いてお願いするということでございますけれども、私のここにも資産表がございますけれども、安房畜産農協赤字経営でもって、何億という負債を抱えておりまして、もう既に倒産寸前なんです。ですから、いち早くどこかへ移せるものであれば委託先を変えておいた方がいいんじゃないか、このように思っておりますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 経営内容につきましてちょっと把握してございません。先ほど御答弁申し上げましたように、現在委託先の引き受け手がないという現状でございまして、ただしかながら、ただいまそういうふうなお話もございます。またそれらも含めまして検討したいと存じます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） 安房畜協の問題が出ましたけれども、やはり屠場も同じことだと私は思っています。もうやっていけないような状態だそうなんですけれども、その話を聞いておりますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） 伺っておりませんです。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） そうような現状になっておりますから、そのときになって焦ってもしょうがないと思いますから、一応老婆心ながら申し添えておきます。

病院の関係についてでございますけれども、国民健康保険の医療費、市民1人当たりの年度別の価格を教えたいと思いますけれども。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 国保の被保険者の1人当たりの診療費の費用額でございます。平成2年度と平成元年度を申し上げます。診療費というのは入院と入院外と歯科の合計でございます。費用額はいわゆる10割分、本人の負担も入れまして10割分になっております。それから、老人保健は3月から2月までの1年間のベースということで申し上げます。

平成2年度、一般の部が被保険者数が1万 6,784人、診療の費用額、これが20億 4,379万 838円、1人当たりの診療費の費用額12万 1,770円でございます。退職の分でございますが、2,759人、それで診療費の費用額が6億 2,637万 8,127円、1人当たりが22万 7,031円。それから老人保健、4,840人、これが20億 7,236万 5,440円、1人当たりが42万 8,175円となっております。

平成元年度へ移ります。一般の部が被保険者数1万 7,669人、診療費費用額20億 3,494万 967円、1人当たり11万 5,170円。退職分でございます。2,741人、5億 7,953万 8,623円、1人当たり21万 1,433円。老人保健、4,653人、19億 4,313万 5,890円、1人当たり41万 7,609円となっております。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） 重複するかもしれませんが、亀田総合病院だけの分はわかりますか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 亀田総合病院のレセプトの集計でございますが、一番新しい部分で御報告いたしますと — 平成3年の1月から11月、現在までの一番新しい診療分でございます。レセプトと申しますのは、御承知のとおり1カ月で1つの医療機関で1件というふうな集計になっております。亀田総合病院 — 先ほど生稲議員さんから件数の発表がありました。合計で入院、入院外、歯科等を入れまして1万 4,840件でございます。診療費 — 点数でございますけれども、約 8,724万点でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陞君。

◎20番（生稲 陞君） 次に、河川の浄化についてでございますけれども、

正木字川崎の油川へと平成3年11月3日にコイの稚魚を放流いたしました。これは環境保全のために放流したんだけど、ことしの1月31日にし尿が大量に流れてきて、それを役所の方へ連絡したんだけど、すぐ来なかったらしいんです。1時間30分たってようやく来て、5人ばかりでよく見ていたそうなんですけど、その結果についてどうなっておりますか。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（脇田元始君） それの、何といいますか、原因先といいたうか、その件に関しましては不明でございます。

◎議長（福原 勤君） 生稲 陸君。

◎20番（生稲 陸君） さっき市長さんは館山保健所とか、そういう関係機関と協力してやるということでございますけれども、直に館山保健所へ電話しても、電話かけた方にあなたはどこのどなたですかと聞くそうなんです。そうすると、隣のうちで流していると、名前も言えないから黙っていると、それだったら行かないよと言って全然もう来てくれないそうです。ですから、隣近所のやつをすぐ隣の人が名のり上げて頼むというのちょっとおかしいものだから、それを隠しているというとそういうことで、全然来てくれないということを行っていますけれども、今後そういうことのないようにやっていただきたいと思います。

それと、5番目については農業の振興対策でございますけれども、やはりそれについては館山市農業企画研究会の方としてやるということでございますけれども、そういうのをいろいろ検討するにはやはりお金が必要だと思います。予算として40万ぐらい出ていると思いますけれども、これじゃあ少ないんじゃないかと私は思います。ことしはもう予算とってしまっていますから、もう少し大目に予算をとっていただくように努めていただきたいと思います。

以上、終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で20番議員生稲 陸君の質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明3月10日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは3月10日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問